

---

山中湖村エコミュージアム基本計画



平成 27 年 3 月

山中湖村

---



## 目次

1. 本計画策定の背景と目的.....	1
(1) 山中湖村エコミュージアム基本計画とは.....	1
(2) 本計画の構成.....	1
(3) 本計画策定の背景.....	2
(4) 本計画策定の目的.....	5
(5) 本計画の位置づけ.....	6
2. 山中湖村エコミュージアムについて.....	7
(1) 山中湖村エコミュージアムの活動の名称について.....	7
(2) 山中湖村エコミュージアムが目指すもの.....	8
(3) 山中湖村エコミュージアムとは.....	10
3. 活動の展開.....	11
(1) 宝を使ったまちづくりの手順.....	11
(2) 山中湖村エコミュージアムの基礎となる活動.....	12
4. エリアや拠点施設の設定.....	13
(1) 施設の考え方.....	13
(2) 各展示エリアの特徴.....	16
5. 推進体制.....	21
(1) 村民が主体となり活動を展開するための段階的な推進体制.....	21
(2) 連携を図る団体等.....	23
(3) 試行期・実践期の推進体制.....	25
6. 宝の活用プログラム(案).....	29
(1) 活動のロードマップ.....	29
(2) 宝の活用プログラム(案)の実施手順.....	32
参考1. 試行期の活動実績.....	45
参考2. エコミュージアムとは.....	53



# 1. 本計画策定の背景と目的

## (1) 山中湖村エコミュージアム基本計画とは

### ①エコミュージアムについて

エコミュージアムは、1960年代に国際博物館会議（ICOM）の初代会長であるフランスのアンリ・リヴィエールが創案しました。リヴィエールによると、エコミュージアムは、地域社会の人々の生活と、その自然環境、社会環境の発展過程を史的に探究し、自然、文化、産業遺産等を現地において保存し、育成し、展示することを指します。これは、地域の有する資源や文化を持続的に活用しながら、当該地社会の発展に寄与することを目的として実施されます。また、エコミュージアムは、行政と住民が一体となって発想し、形成し、運営していくことでより効果的に推進するものであると示されています。

### ②山中湖村エコミュージアム基本計画とは

山中湖村のエコミュージアム基本計画は、このエコミュージアムの理念を取り入れて、住民が自ら「山中湖村ならではの暮らしの魅力」について、きちんと向き合い、考え、議論して、まちづくりを進めるためのしくみについて整理したものです。この計画は、行政が本計画を推進、村民の活動を支援していくための指針として策定するものです。

## (2) 本計画の構成

山中湖村エコミュージアム基本計画は、以下に示す6章によって構成されます。

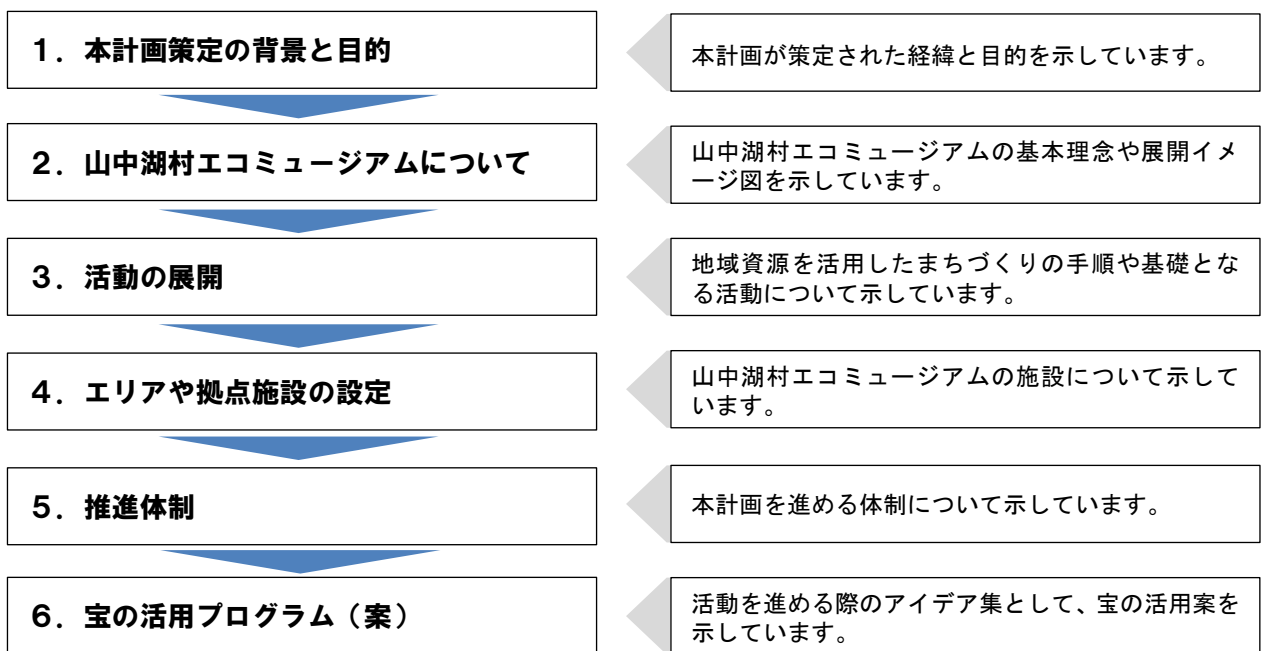


図 本計画の構成

### (3) 本計画策定の背景

#### ①山中湖村のまちづくり

山中湖村は、標高約 1,000m に位置し、日本一の富士山、富士山に一番近い富士五湖最大の湖である山中湖に代表される豊かな自然から多くの恵みを授かり、国内外から訪れる多くの人々に国際観光リゾート地として親しまれ、発展してきました。

現代に生きるわたしたちは、先人たちが築いてきた山中湖村を引き継ぎ、より良い未来を切り拓き、そして次代に伝えていく使命を担っています。

#### 課題：先人が築いてきた山中湖村をより良い形で次世代へ伝えること

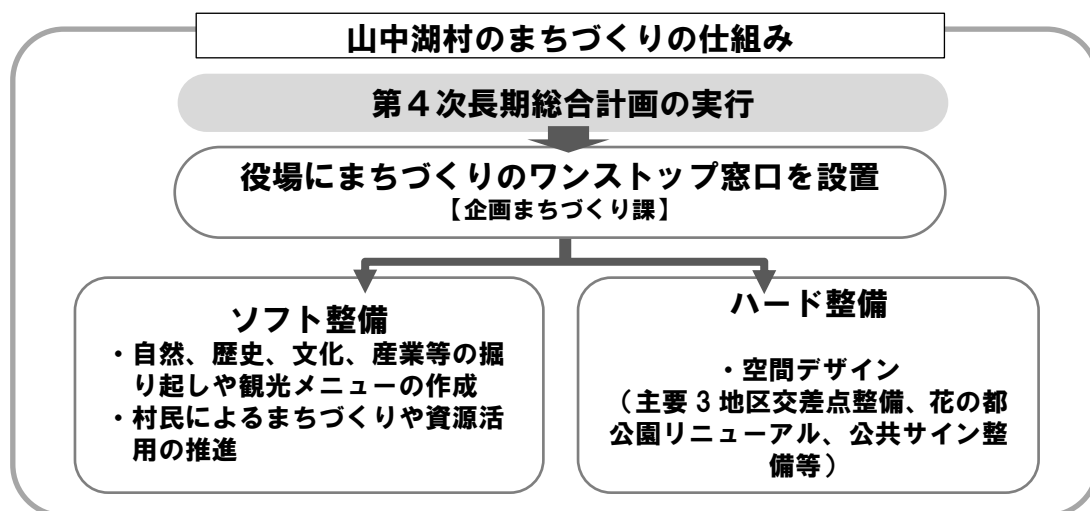
21 世紀に入り、地球環境問題、人口減少と少子・高齢化、高度情報化、国際化、価値観・ライフスタイルの多様化への対応等、様々な課題が山中湖村を取り巻いています。これらの課題に対応するため、山中湖村においても、少子高齢化を進行させないための定住促進や、地域の重要な産業となっている観光の振興、持続可能な社会づくりを進めていくことが必要です。このためには、まず「地域の個性や強み」を知り、活かす方法を考えていくことが求められます。

#### 今後の方向性：まちづくりに関する取組みの強化

このような背景の中、山中湖村では、平成 25 年度に機構改革を行い、企画まちづくり課にまちづくり推進室を新設し、まちづくりの準備調整を開始し、ソフト面及びハード面での取組みを強化しました。

そして、ソフト面では村民が主体となり、自然や文化、歴史、産業といった地域資源を用いた新たな地域活性化を図る村づくりを推進し、また、ハード面では景観に配慮した空間デザイン整備を進めています。

山中湖村エコミュージアムは、このうちのソフト整備の取組みを整備するものです。また、村民の参加や地域資源の持続的な活用に基づくハード整備が実施されるよう、ハード整備とも連携をとりながら進めます。



## ②ソフト整備における課題と方向性

時代の変化に対応した持続的なまちづくりを進めるためには、村民の故郷に対する想いや愛着がなければ、そのまちづくりの事業は一過性で定着しない事業となってしまう恐れがあります。村がさらなる発展を遂げるためには、村民全員の知恵と力を結集し、新しいまちづくりを進めていかなければなりません。

山中湖村では、まちづくりのソフトの課題と今後の展開を以下のように捉え、村民の力を終結して、新しいまちづくりに取り組んでいきます。

### 課題：村民一人一人の心の豊かさを向上させ、村民の融和と団結を高めること

物質的な豊かさよりも心の豊かさを重視する現代においては、村民一人一人の心の豊かさを向上させることで、人と人とのつながりを深め、住みよい村づくりを進めていくことが求められます。また、観光客のおもてなしについても、国際化や多様なニーズに答えていくことなど、これまでの方向性の転換期を迎えています。これらの対応は、これまでの価値観や対処法だけでは解決できるものではありません。山中湖村がさらなる発展を遂げるためには、今まで以上に人と人とのつながり、村民の融和と団結したうえで、まちづくりに取り組む必要があります。

また、平成 28 年 2 月に策定された「山中湖村まち・ひと・しごと創生総合戦略」においても地域資源の掘り起しや地域住民のまちづくりや観光への積極的な関わりを持つことが目標として掲げられています。

### 今後の方向性：「エコミュージアム」の理念を取り入れたまちづくりの推進

村民が主体となり、まちづくりを進めるため、「エコミュージアム」の理念を取り入れ、村民の故郷に対する熱い想いや愛着を原動力としたまちづくりに取り組みます。これにより、これまで十分な活用がされていなかった、山中湖村の人・自然・文化・歴史・産業などの魅力ある資源について、発掘・整備・活用を行っていきます。この取り組みは、村民が主体となり、行政がこれを支えるとともに、「まちづくりは人づくり。人づくりなくして地域なし。」に象徴されるように、まちづくりに欠かせない人づくりについても、アスペン\*などの先進地事例を参考に実践していきます。

---

#### ※アスペン研究所

1949年、米国コロラド州アスペンに集まったシュバイツァー博士、ホセ・オルテガ・イ・ガセット博士、ハッチンス・シカゴ大総長らが「対話の文明を求めて」と題する講義を行い、1950年にこの対話の重要性にもとづき、学者や芸術家、事業化たちがゆっくと語り合い、思索するための理想的な「場」を提供するためアスペン研究所が設立された。各個人の価値観や生き方について対話を重視して見つめる手法は国際的に高い評価を得ており、日本でも1975年に一般社団法人日本アスペン研究所が設立され、人間や文化、社会、自然などの様々な問題を対話を通じて思索を深めるセミナーを開催している。自身の理念を見つめ直し、将来を展望するリーダーシップ能力の情勢に貢献している。

### ③ハード整備における課題と方向性

山中湖村の豊かな自然や美しい景観は、村民の誇りであると共に、村の主要な産業である観光の重要な資源となっています。

山中湖、富士山に代表される豊かな自然を保全するとともに、最大限活用するため、また自然環境と調和した、良好な「風景づくり」の実現に向け、平成 22 年に山中湖村景観計画および景観条例が策定、施行され、富士山世界文化遺産登録に向け、山中湖の湖岸におけるクリーンアップ作戦等各種取組みが実施されてきました。

このような背景のもと、山中湖村におけるまちづくりのハードの課題と今後の展開を以下のように捉えて、特に良好な景観を保全、創出していくことに取り組んでいきます。

#### **課題：村の魅力となる山中湖や富士山等の自然と調和した空間整備**

平成 25 年に富士山が世界遺産に登録されたこともあり、今後、山中湖や富士山といった自然環境やこれらの景観の保全は、村内外からより強く求められることとなります。またこれらの環境に調和した景観形成を行っていくことは、ここに暮らす村民村民の豊かな暮らしをまもり、また観光産業を支えるためにも重要です。

特に、村の玄関口である、「明神前交差点周辺地区」「平野交差点地区」「旭日丘交差点地区」は景観計画の「高原リゾートビレッジにふさわしい玄関口の形成」を図ることとされており、これらの空間整備は、今後の山中湖村全体のデザインや景観の方向性を示す重要な役割を担っています。

#### **今後の方向性：村全体の空間整備の指針となる 3 地区交差点等主要施設整備の推進**

長期総合計画、都市計画マスタープラン、景観計画・景観条例、地域防災計画等を基本に、3 地区交差点整備における各地区の戦略を設定し、3 地区交差点の主要施設整備を実施し、花の都公園や、公共サインの見直しなど、村のデザインの見直しや再整備を進めます。これらの事業は、山中湖村エコミュージアムと連携することで、村民の意見や、地域の歴史や文化などの特性を踏まえて進めます。



## (4) 本計画策定の目的

先人たちが築いてきた山中湖村を引き継ぎ、より良い未来を切り開き、そして次世代へ伝えていくために、村民がふるさとの豊かな自然、文化、歴史に誇りと愛着を持ち、力を合わせて新しいまちづくりに取り組むことを目的として本計画を策定します。

また、単にエコミュージアムの理念を取り入れるだけではなく、山中湖村の特性を考え、山中湖村ならではの取組みを展開することを目的に、以下の「山中湖村におけるまちづくりのねらい」を踏まえて本計画を策定します。

### 山中湖村におけるまちづくりのねらい

- 山中湖村民の暮らしや生活からあふれてくる魅力を掘り起し、まちづくりに活かす。
- 住民が自ら「山中湖村ならではの暮らしの魅力＝価値」について、きちんと向き合い、考え、議論して、まちづくりを進めるしくみを整えることでまちづくりについて主体的に考え、取り組む人材を育成する。
- 山中湖村エコミュージアムの形成を支える基盤を整備する。
- 上記の資源、人材、基盤を活かして交流を促進する。

## (5) 本計画の位置づけ

本計画は、山中湖村第4次長期総合計画後期基本計画に基づいて策定します。

また、同じく山中湖村第4次長期総合計画後期基本計画に位置付けられている村の玄関口である主要3交差点周辺整備（平野交差点、旭日丘交差点、山中明神前交差点）及び、花の都公園再整備計画等の公共施設整備に関する計画との連携を図りながら、村全体の魅力を高めていくことを目指します。

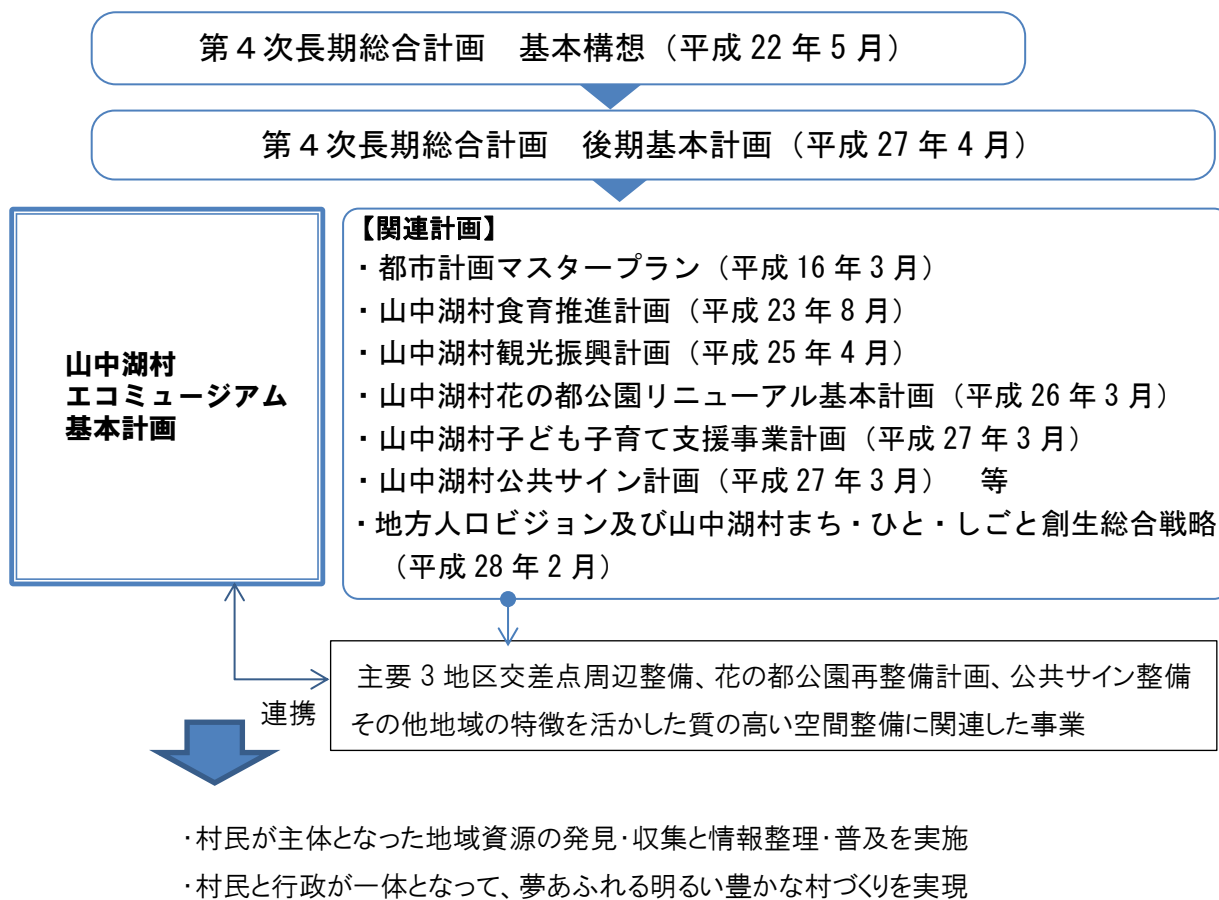


図 計画の位置づけ

## 2. 山中湖村エコミュージアムについて

### (1) 山中湖村エコミュージアムの活動の名称について

山中湖村エコミュージアムは、山中湖村の地域資源である「宝」（自然や景観、歴史、文化や、普段の暮らしの中で教えたい、残したい、自慢できる、記憶に残っている村のモノやコト）の掘り起しから始まり、この山中湖ならではの「宝」を使うことで持続的なまちづくりを進めていきます。

また、山中湖村エコミュージアムの活動は、村民が考え、まちづくりを実験的に試行しながら取り組んでいく、ラボラトリー方式を取り入れています。

このため、宝とラボラトリーを合わせて、村民が主体となり、エコミュージアム基本計画に基づいて実施する、宝を使ったまちづくりの活動を「山中湖宝ボ（たからぼ）」と呼びます。

また、この活動のしくみについて示した本計画書は「山中湖村エコミュージアム基本計画 山中湖宝ボの書」とします。

#### ●本計画の名称

「山中湖村エコミュージアム基本計画 山中湖宝ボの書」

→エコミュージアムの理念を取り入れて、住民が自ら「山中湖村ならではの暮らしの魅力」について、きちんと向き合い、考え、議論して、まちづくりを進めるためのしくみについて整理した計画

#### ●活動の名称

「山中湖宝ボ」

→村民が主体となり、エコミュージアム基本計画に基づいて実施する、宝を使ったまちづくりの活動

#### ○宝ボの由来

- ・山中湖村の地域の魅力である「宝」と「実験所（ラボラトリー）」の造語。
- ・村民が、宝を使ったまちづくりを、実験的に挑戦しながら取り組んでいく活動とするため、宝ボという名称としています。



※宝ボと表記します。ロゴでは、「ラ」の字を等号記号のように変形させて示します。

---

## (2) 山中湖村エコミュージアムが目指すもの

山中湖村エコミュージアムの基本理念は「夢あふれる 明るい 豊かな 山中湖村の実現」です。

基本理念に示した「夢あふれる」村とは、全ての村民が、村の自然・歴史・社会環境について誇りを持って学び、まちづくりに携わる「郷土愛にあふれる村」を指します。また、「明るい・豊かな」村とは、人がつながり、協力し合い、笑顔が絶えないコミュニティの活性化と、村の自然や歴史を活かした観光などの産業が活性化した「コミュニティと経済が活性化」した村を指します。

基本理念に示す村を実現するために、「誰もが山中湖村に生まれて、暮らして、来て、よかった」と思えることを目標として、行動指針に基づいた活動を展開します。

行動指針は、山中湖村エコミュージアム基本計画を推進する組織が取り組むべき主な活動を指します。「山中湖村におけるまちづくりのねらい」を踏まえて、「人材育成」「山中湖村学の充実」「観光・産業の振興」「情報発信の充実」「宝の保全・基盤の整備」の5つを定め、人材育成は、村のまちづくりを進める上で、重要性が高いため、行動指針の一番に掲げます。

本計画を実行する組織は全村民です。本計画では、村民みんなが研究員と考え、村民が活動に参加することで、行動指針を実行していくこととしています。また、村民の活動を、行政や学識者のサポートや、事業者との連携により支える体制づくりを行い、基本理念の実現を目指します。

基本理念（目指すもの）

夢あふれる 明るい 豊かな 山中湖村の実現

～村民が心をつにして、夢あふれる山中湖を築いていく姿を次世代に伝える～

目標

誰もが

山中湖村に生まれて、暮らして、来て、良かった!!

と、思える村

まちづくりのねらい

1. 山中湖村民の暮らしや生活からあふれてくる魅力を掘り起し、まちづくりに活かす。
2. 住民が自ら「山中湖村ならではの暮らしの魅力＝価値」について、きちんと向き合い、考え、議論して、まちづくりを進めるしくみを整え、人を育てる。
3. 山中湖村エコミュージアムの形成を支える基盤を整備する。
4. 上記の資源、人材、基盤を活かして交流を促進する。

行動指針

1. まちづくりを動かす「人材育成」
2. 地域の文化を継承する「山中湖村学の充実」
3. むらの活力となる「観光・産業の振興」
4. むらの知名度を高める「情報発信の充実」
5. 次世代へ引き継ぐ「宝の保全・基盤の整備」



組織

村民（村民みんなが研究員）

行政、学識者のサポート

事業者との連携

### (3) 山中湖村エコミュージアムとは

山中湖村エコミュージアムが対象とする資源、ソフト展開、ハードの展開についてイメージ図に示します。

本計画では、村全体を博物館とし、地域資源を「宝」と表現します。

ソフト展開では、宝を、発掘し、調査・研究して深め、保全・活用して、村の魅力を発信したり、課題を解決する事業化を図り、教材や商品として村民や来訪者へ発信していきます。

ハード展開では、宝は、村のまちなみや社寺、自然や景色、食文化や祭りなどであり、村の各所が宝の展示場と考えます。そして、活動や宝を見て回る際に情報を得る施設として、コアとサテライトを村内各所に設置します。これらの施設や宝をつなぐ主要なルートディスカバリートレイルと位置づけます。

**宝**

とは？

山中湖村の自然や景観、歴史、文化+

普段の暮らしの中で、教えたい、残したい、自慢できる、記憶に残っているモノやコト(学術的な視点のみでなく住民ならではの視点:伝承、くらしの風景等)

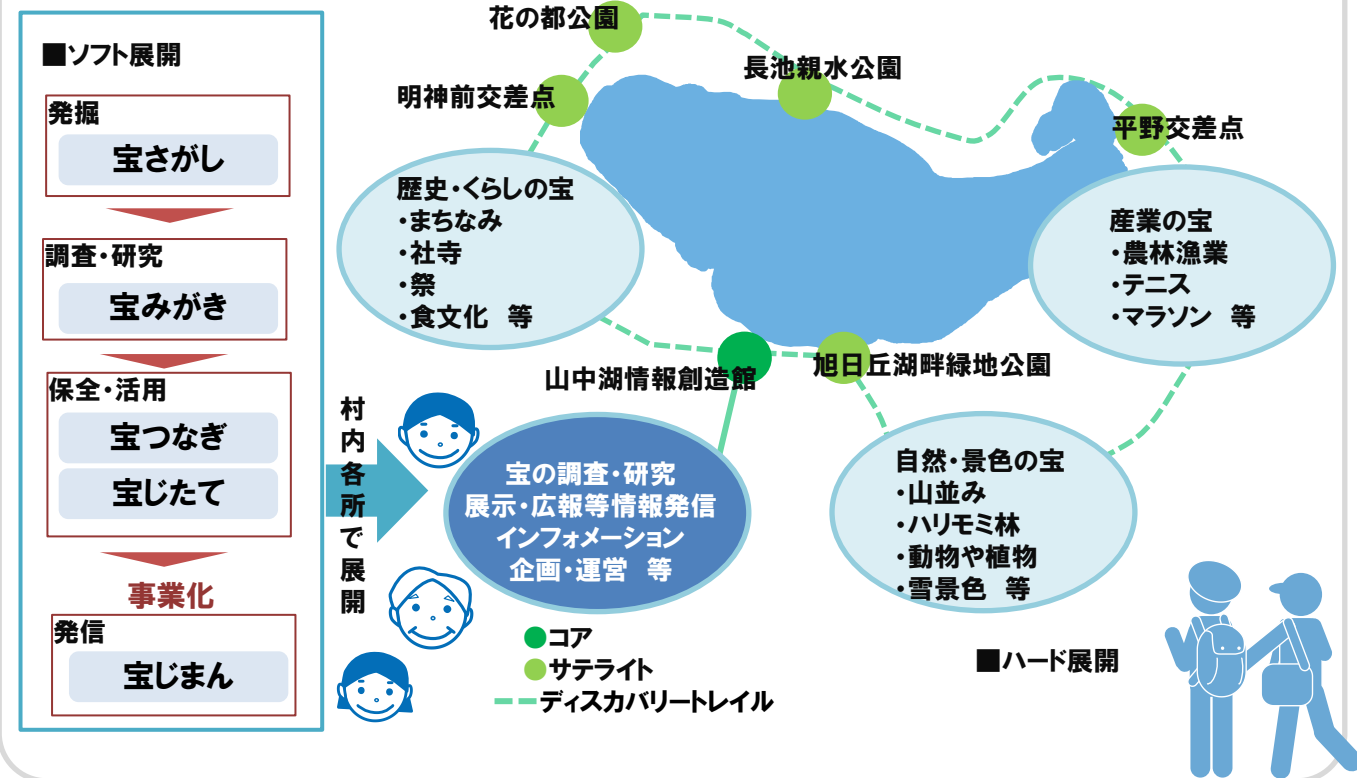


図 展開イメージ

### 3. 活動の展開

#### (1) 宝を使ったまちづくりの手順

村民が、他の村民や来訪者に、山中湖村の魅力や価値などを発信して、地域への理解や愛着を高めていくことを目指して、宝を利用していきます。

「宝」を利用する基本的な手順は下図に示すとおりです。初めに、「宝」を発掘し、宝について詳しい住民や識者への聞き取り調査や文献調査によって宝を調査・研究します。調査・研究された「宝」は、保全され、活用するために教育教材や特産品等の商品化を図り、情報や体験として村民や来訪者へ発信、提供されます。この一連の流れにより村民や来訪者は山中湖村への理解を深め、山中湖村に愛着を持つという、好循環を作り出します。

この取り組みは、村民が考えた企画を、仲間を集めて実験的に挑戦しながら、実現させていきます（ラボラトリー方式）。このため、エコミュージアムの取り組みでは、「ラボ」として複数の企画をそれぞれに立ち上げながら、事業化、活動の拡大を目指します。宝を使ったまちづくりは、このように、村民が自ら宝を通して見えてきた村の魅力を高めたり、村の課題を改善していくことを目指して進めます。

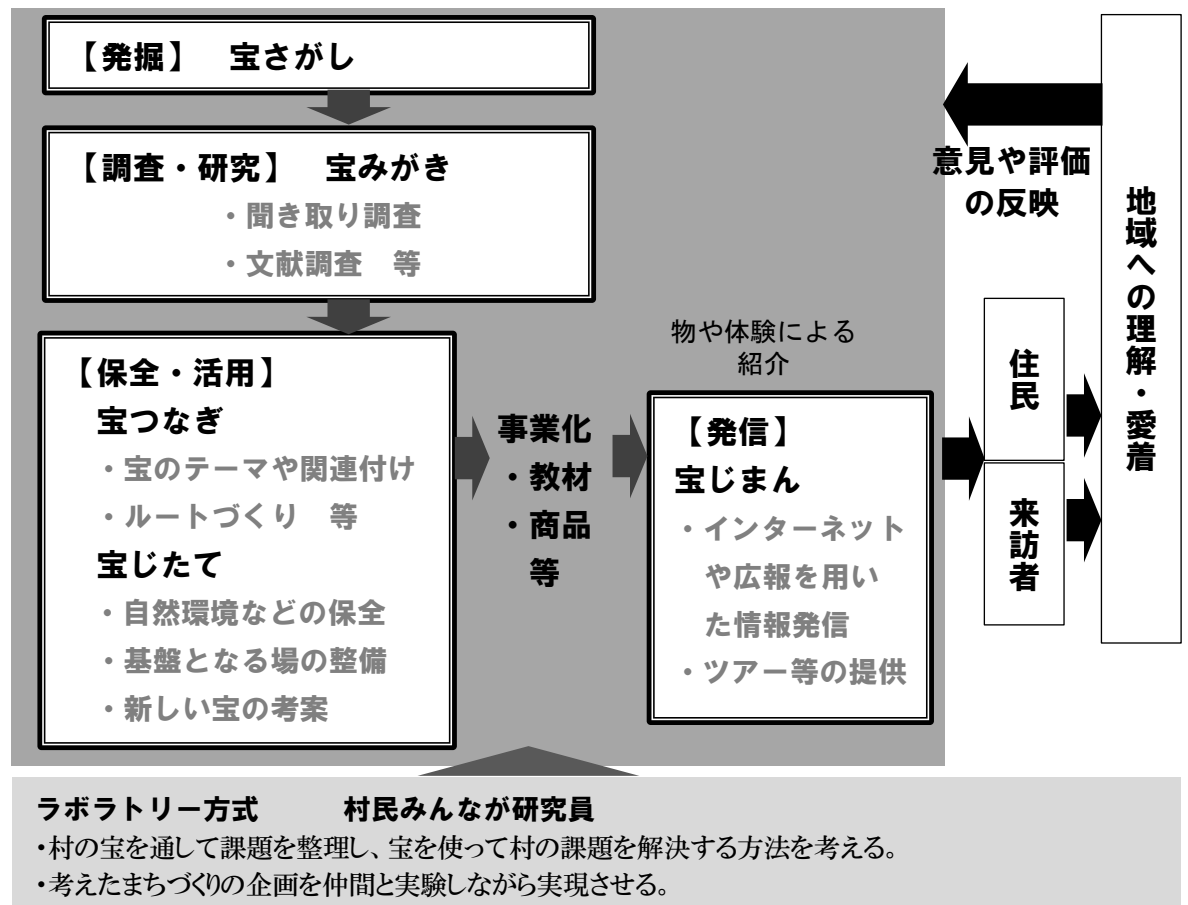


図 ソフトの展開

## (2) 山中湖村エコミュージアムの基礎となる活動

### ①宝の情報管理

宝の情報は、現在、エクセルによるデータベースと、公開されているホームページの「山中湖宝めぐりマップ」に整理されています。

宝の発掘、調査、研究を行った際には、コア施設において管理され、活動を行う村民が、この2つの情報を更新することで、宝の情報を常に最新のものとします。

### ②宝の発掘・調査・研究

宝の発掘・調査・研究は、宝に関するむらあるき等のイベントやワークショップを通して進めます。活動の内容の事例は、以下の表に示すとおりです。この活動は、コア施設での活動や、村民の立ち上げたラボや部会によって実施されます。

これらの活動により整理された宝を使った宝の活用プログラム（案）は第6章に示します。

表 山中湖村エコミュージアムの基礎となる活動

項目	概要
①宝の情報管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>各団体や村民がそれぞれに活動に着手できるようにするための宝の調査研究活動の計画づくり。</li> <li>宝の基礎情報の整理と更新（データベースの管理・更新。山中湖宝めぐりマップの更新。）</li> <li>各活動への宝の情報提供。</li> </ul>
②宝の発掘・調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>エコミュージアムの展開の核となる宝の発掘調査研究を行い、活用の方策を検討。</li> <li>宝について詳しい達人等の参加により詳細な調査と資料整理を実施。</li> </ul>
(例) 歴史文化研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>三浦環の足跡の整理（立ち寄った場所、歌の練習をした場所、遺品、エピソード等の整理、地図化）。</li> <li>山中湖村に滞在した文化人の軌跡の整理（徳富蘇峰、若槻礼次郎、仲小路彰等に関する資料の収集。滞在時の様子等を知る村民へのヒアリング調査の実施等）。</li> <li>4 地区ごとの歴史の整理（地図、年表、文化風習等）等。</li> </ul>
(例) 自然・アウトドア研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>動植物の確認場所の地図化・暦づくり。</li> <li>ハイキング、釣り、キャンプ等や、新しいアウトドア体験の発掘。</li> <li>写真撮影スポットの整理（良好な景観の場探し）。</li> <li>【実施中：富士山自然学校】※宝の情報の整理の際には連携を図り進める。</li> </ul>
(例) 食文化研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>郷土食の掘り起し（おつけだんご、みうりだんご、南蛮味噌、山椒佃煮等）と各家庭ごとの違いの研究等。</li> </ul>



## 4. エリアや拠点施設の設定

### (1) 施設の考え方

村全体を生活環境博物館（エコミュージアム：山中湖宝ボミュージアム）として捉え、村全体がエコミュージアムの活動の領域とします。この領域は、村民にとっては、活動の場であり、来訪者にとっては村の宝を見たり、体験できる場とします。

村内には、エコミュージアムの活動拠点であり、情報の蓄積・発信の拠点となるコア施設を定めます。また、村全体のエリアを、宝の特徴ごとに展示エリアに区分し、展示エリア毎の情報提供等の拠点となるサテライトを配置し、これらをつなぐ移動経路としてディスカバリートレイル（発見の道）を定めます。ディスカバリートレイルは、複数の展示エリアを繋ぐ道である主導線と、展示エリア内の宝をつなぐ道である副導線の2種類を定めます。

#### 【展示エリア】

山中湖村は山中、平野、長池、旭日丘という4つの地区からなります。4つの地区はそれぞれに成り立ちが異なり、地区ごとに異なる祭りが実施されるなど、文化や風習の面においても異なる特徴を有しています。また、山中地区に位置する花の都公園は、約30万㎡の面積を有し、富士山の景観と広大な花畑を楽しむために村により整備された観光施設であり、4つの地区とは異なった空間となっています。

実際に村民から集めた「宝」は、大きく山中、平野、長池、旭日丘の4地区と、花の都公園という5つの地区に集中して見られるため、エコミュージアムにおける展示エリアは「山中展示エリア」「長池展示エリア」「平野展示エリア」「旭日丘展示エリア」「花の都公園展示エリア」の5つに区分します。

#### 【コア】

博物館の入口となるコアは、村全体の「宝」の情報蓄積・発信拠点であり、村全体のまちづくりの活動拠点、教育普及活動の拠点として機能します。

このため、資料やデータ等の情報が蓄積可能であり、またエコミュージアムの案内受付ができるよう人が常駐していることが求められます。

このため、村の図書館であり、人が常駐する施設である山中湖情報創造館をコア施設として位置づけます。

#### 【サテライト】

サテライトは、各展示エリアの入口となる施設です。展示エリアの「宝」の情報蓄積・発信拠点、エリア別の教育普及活動の拠点となります。

コアのように人が常駐する必要はありませんが、人が集まりやすく、情報を展示したり、活動の集合場所として使いやすい施設であることが求められます。

このため、各エリアの中でも中心的な場として以下の施設を設定します。

- 山中展示エリア：明神前交差点
- 平野展示エリア：平野交差点
- 長池展示エリア：長池親水公園
- 旭日丘展示エリア：旭日丘湖畔緑地公園
- 花の都公園展示エリア：花の都公園ふらら

短期では、コア施設の山中湖情報創造館が活動や情報発信拠点として運営を開始します。中期より、サテライトにおいて、エコミュージアムのパンフレットや宝の情報展示などの情報発信を開始します。

### 【ディスカバリートレイル】

#### ●主導線

コアとサテライトをつなぐ道です。山中湖村の湖畔の道路（マリモ通り）と、湖畔から花の都公園へと向かう国道 138 号及び県道 717 号を主導線とします。

#### ●副導線

展示エリア内にある複数の「宝」をめぐるための散策路です。現在作成しているむらあるきルートや、フットパスなどを適宜、設定していきます。

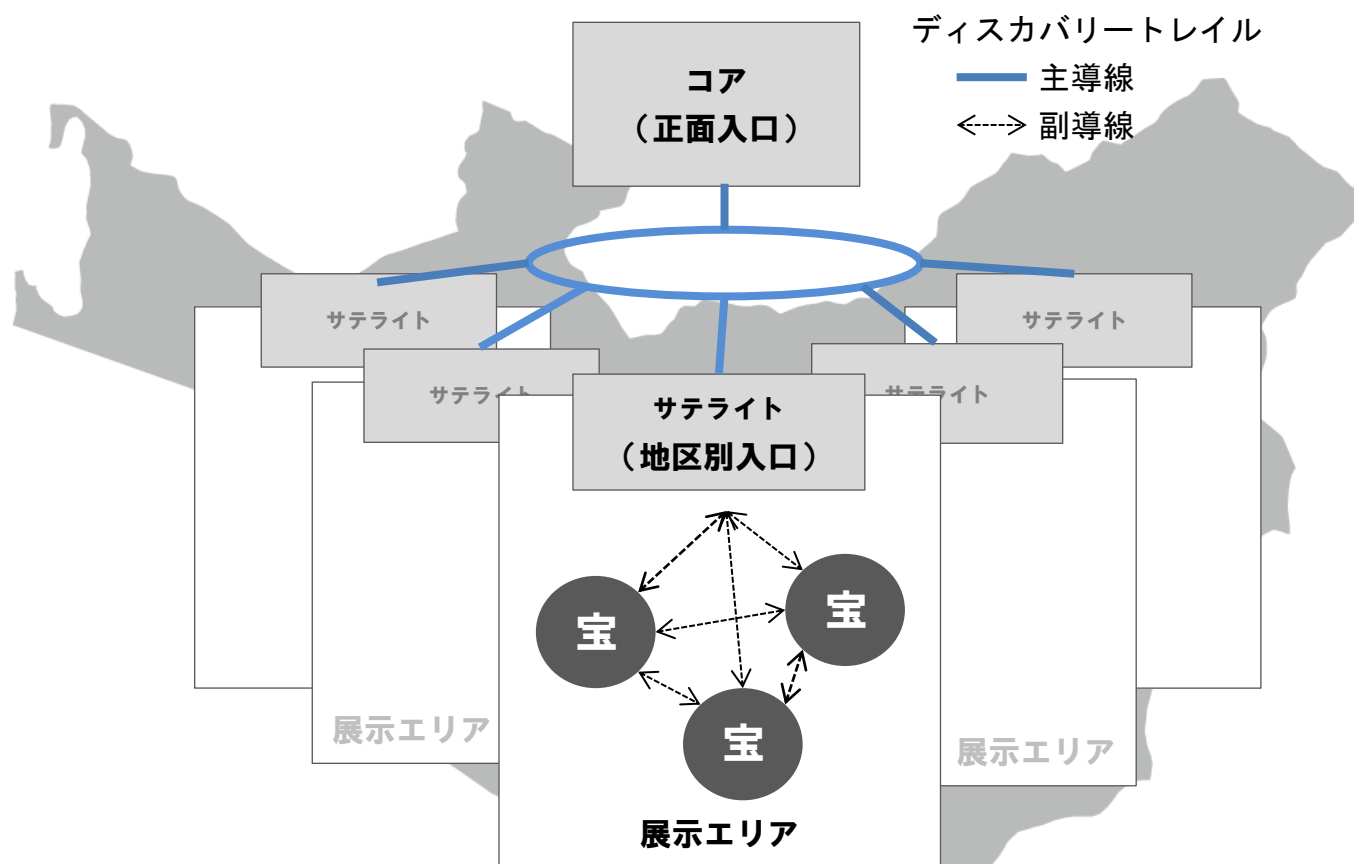


図 エコミュージアムの施設の設定の概念図

表 各施設の役割・機能

施設名称	役割・機能
展示エリア	村全体を地域資源の特徴により複数に区分した領域
宝（展示）	地域資源（自然や寺社、史跡等の地域資源）
コア	<ul style="list-style-type: none"> <li>○村全体のまちづくりの活動拠点</li> <li>○エコミュージアムの入口</li> <li>○村全体の「宝」の情報蓄積・発信拠点                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の収集・保存</li> <li>・宝のデータベース管理</li> <li>・情報提供サービス（住民・来訪者へ）</li> </ul> </li> <li>○教育普及活動の拠点</li> </ul>
サテライト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○展示エリアの入口</li> <li>○展示エリアの情報提供サービス（住民・来訪者へ）</li> <li>○エリア内、村内全域へのツーリズム発地</li> </ul>
ディスカバリートレイル（主導線）	コアとサテライトをつなぐ主要な道路
ディスカバリートレイル（副導線）	宝をめぐるための道（フットパスや散策路）

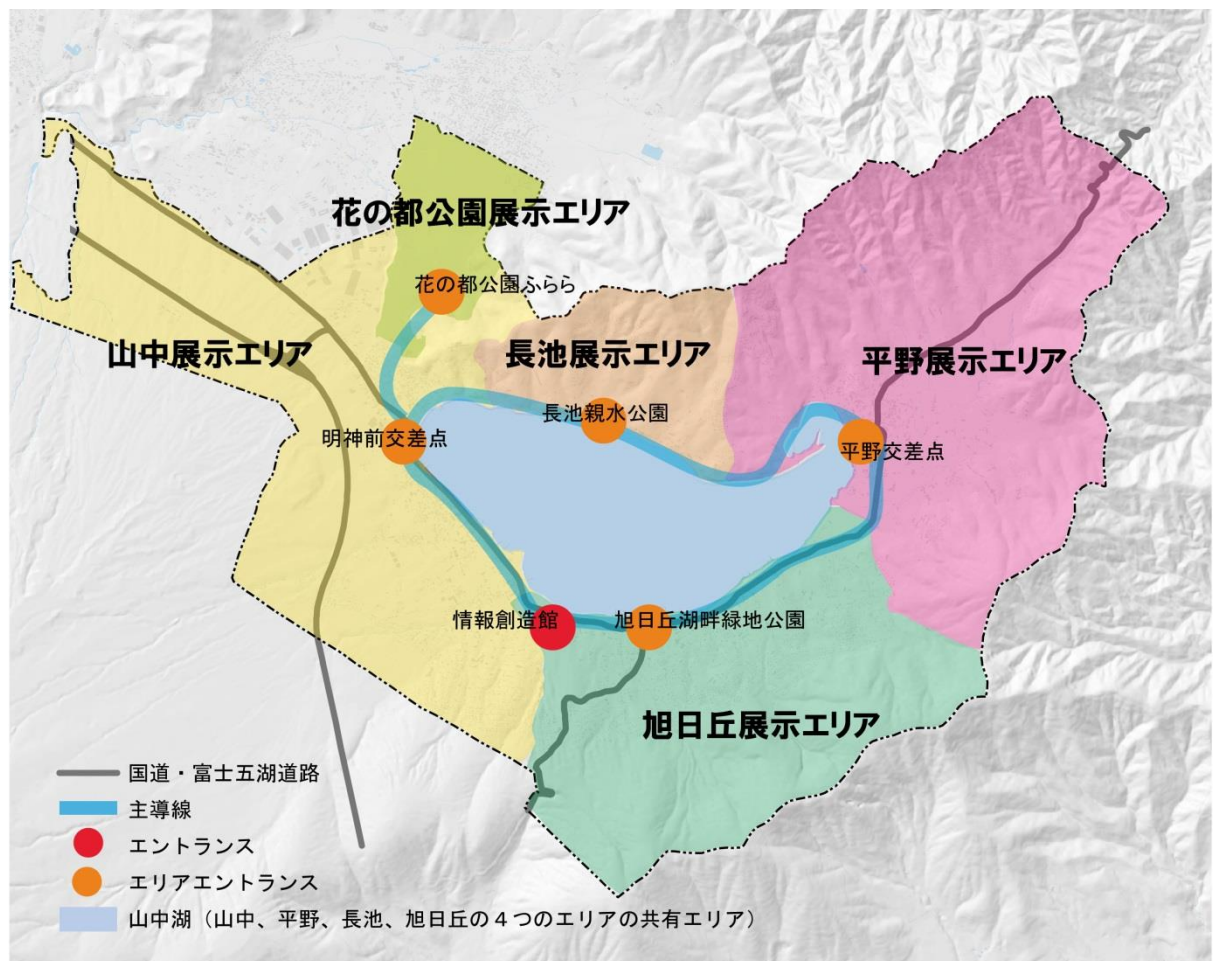


図 施設の展開

## (2) 各展示エリアの特徴

### ①山中展示エリアの特徴

#### 鷹丸尾溶岩台地と鎌倉往還の歴史を感じられる地区

山中湖村の中でも富士山に近い位置にあり、鷹丸尾溶岩の地盤を観察できる場所が多数あります。溶岩を切り出した場所もあり、くらしにも利用されていたことを伝えています。

古くから鎌倉往還が通っており、地区内には、山中口留番所址や観音堂、双胎道祖神、稲荷様、金刀比羅宮などたくさんの史跡や寺社が見られ、地区の歴史を感じることができます。大きな祭りである安産祭りや、伝統ある明神太鼓などの文化・祭事が今も伝えられています。

#### 【自然・景色】

- ・大露頭などの鷹丸尾溶岩台地に関連した宝が複数あり、溶岩台地に成立した地域であることを伝えています。入会組合が管理するいこいの森や山中湖浅間神社の森は、四季を楽しみながら樹林の風景を楽しめます。
- ・縦道や梁尻通りなど、村のくらしや歴史を今に伝える通りがあります。

#### 【史跡・寺社】

- ・鎌倉往還沿いに山中口留番所址、観音堂、双胎道祖神、稲荷様、金刀比羅宮などの史跡や寺社が多くあります。これらの史跡や社寺からは、甲州と駿州を繋ぐ街道沿いの村としての歴史を伝えています。かつて利用されていた馬車鉄道は現存しませんが、街道に関連した歴史として案内看板などで紹介されています。
- ・街道沿いではヘダの生垣や雪代対策の石垣など、この土地ならではの暮らしに関連した土木構造物が見られます。

#### 【祭り・イベント】

- ・山中地区の最大の祭りである安産まつりは、祭の際に演奏される明神太鼓や、豊玉姫命と右龍と左龍の言い伝え、祭の日の料理である貝のひも等の関連した宝も多く、地域の歴史と文化、人の繋がりが感じられる重要な祭りです。
- ・まちづくりの一環として村民主体ではじめられた「竹灯籠イベント」は村内の各所で行われる取組みに発展しています。

#### 【くらし・料理・工芸品】

- ・北富士演習場が身近にあり、昭和初期からアメリカ軍が滞在するなど、外国人や外国文化に触れる機会が多く、これに関連したくらしの話が多数あります。北富士演習場は現在は自衛隊の駐屯地となっていますが、現在も入会地として山野草を取りに入るなど、形は変わっても生活に密接な係わりがあります。

## ②平野展示エリアの特徴

### スポーツ合宿村、歴史や自然と多様な魅力を有する地区

平野地区は、かつては稲作、大根栽培といった農業に取り組んでいましたが、昭和になりテニスの合宿村として利用されるようになってからテニスコートが多くなり、夏を中心に大学生などの若者が集まる地区となっています。

地区の中心部には平野天満天神社や寿徳寺、石割山の石割神社等の寺社をはじめ、平野口留番所址などの歴史的な遺構が多数あります。

また、パノラマ台や石割山、三国山などの山々からの富士山や山中湖の展望、みさきという特異な地形などの自然景観を楽しめる場所もあり、多様な魅力を有する地域となっています。

#### 【自然・景色】

- ・湖に形成されるのは珍しいと言われる砂嘴という地形がみられます。地元では昔から「みさき」と呼ばれています。
- ・みさきには山中湖湖畔では珍しくヨシやツルヨシが繁り、ヨシキリ等の鳥類が見られます。
- ・山中湖岸には、タコノアシやヒメビシといった水辺の貴重な植物が生育しています。
- ・富士山と山中湖を一望にできるパノラマ台が位置しています。また、石割山や三国山、といった山やハイキングコースも多数あり、富士山だけではなく天気の良い日には三浦半島までも展望できる場所があります。

#### 【史跡・寺社】

- ・寿徳寺は山中湖村唯一の寺であり、国際的なオペラ歌手である三浦環のお墓があります。景観的な資源となるイチョウの大樹もあり、地区の風情を演出しています。また、寿徳寺には多数の文化財が保管されています。
- ・かつて領内への出入りを取り締まっていた場所の址として、平野口留番所址が残されています。山中湖村では山中口留番所と2か所の口留番所があります。

#### 【祭り・イベント】

- ・平野御神木祭、石割神社祭典などの伝統ある祭りが行われます。御神木は山中や長池地区でも行われますが、平野は30mほどの村でも最も大きな御神木を立てます。
- ・昭和40年頃からテニスの合宿村として有名になり、テニスコートが地区内に多数みられます。テニスに関するイベントやスポーツに関する宝も多くあります。

#### 【くらし・料理・工芸品】

- ・昔は稲作が盛んであり、その後、大根づくりが盛んになりました。大根は、切り干し大根にするなどして高く売れていた時代もありました。現在は農業はほとんど行われていませんが、地区の昔のくらしを伝える宝として挙げられています。
- ・昔は水生植物のヒシの実をゆでて殻を割って食べていました。今もヒシは見られますが、今では食べる人は見られなくなりました。

### ③長池展示エリアの特徴

## 道や家の配置に昔のくらしを感じられる地区

山中湖を挟んで富士山を正面に見ることができるため、長池親水公園や集落から眺める富士山の景観が魅力となっています。特に冬のダイヤモンド富士の時期には多くの人が湖畔に集まります。

集落に一步入ると、かやぶき屋根の住宅や、古くから集落の人が使っている生活のための細い道、井戸の跡など、昔の暮らしを感じることでできる集落の景観が広がります。山に入る際に祈った山の神や、養蚕の成功を祈ったお蚕の神様など見ることができます。

集落の湖畔側には立派なケヤキ並木があり、冬には、寄生したヤドリギに集まるキレンジャクやヒレンジャクといった野鳥を目当てにカメラマンが集まります。

#### 【自然・景色】

- ・長池親水公園から眺める富士山の風景は、多くの人に親しまれており、カメラマンなど来訪者も多く訪れる富士山の視点場となっています。
- ・今は見られませんが、40年程前にはホテルが見られました。
- ・「ままの森」は、一部湖畔が高台になっている場所で、富士山の展望地として知られています。高台の下には湧水が出ていて、イトトンボなどの生物も多数見られました。
- ・大平山山頂は、風の影響で樹形の変った低木林が見られます。

#### 【史跡・寺社】

- ・山の神、お蚕の神様といった生活に身近であった神様が今も祀られています。また、長池天神社は集落から少し離れたところにありますが、藤原光親を祀った寺社の経緯などは地区の住民に広く知られています。
- ・長池コミュニティーセンターがある場所は、かつては尋常学校がありました。養蚕が盛んな時期には地区で採れた繭を集める場所にもなっていました。この場所は、今も昔も村の中心として親しまれていた地区の中心地として機能しています。
- ・歴代の家の墓が今も大切にされており、地区内を歩くと昔のくらしが今でも感じられる場所が多数あります。

#### 【祭り・イベント】

- ・長池天神社の祭りや、正月に行われる御神木祭が地区の主な祭りです。今はこのような暦の行事の参加者が減っていますが、神様の祀り方などの風習は、この地の文化を今に伝えています。

#### 【くらし・料理・工芸品】

- ・じゅうろくと呼ばれる地区の人々が種を取って代々大切に育てきたインゲン豆に似た地野菜が存在します。夏はさやごと調理して食し、冬はさやを乾燥させて豆だけを取り出したものを煮豆などに使用します。

#### ④ 旭日丘展示エリアの特徴

### 文化人に愛された閑静な別荘地

旭日丘地区は、古くは三地区の入会地として利用されていた土地でした。昭和初期に、富士北麓の開拓を進めた富士山麓鉄道（今の富士急行）の創始者であり、富士五湖一体を観光開発した堀内良平が、著名な文化人などを滞在させ、別荘地としての利用を推進しました。また、大学の施設の誘致にも取り組んでおり、別荘地や大学のセミナーハウス等が雑木林の中に点在する閑静な地区です。

湖畔の旭日丘湖畔緑地公園の湖岸は、夕日の名所であると共に、山中湖の中でも広々とした砂浜があり、湖岸の散策が楽しめます。また、別荘地の雑木林が美しいことから自然観察に関連した資源も多数見られます。

#### 【自然・景色】

- ・初夏の深夜には、別荘地内においてヒメボタルを観察することができます。
- ・多様な野鳥が観察できるため愛好家が集まる、野鳥の観察スポットが存在します。
- ・植物では、ブナやミズナラの巨木、景色では雑木林の風景などの宝が挙がっており、樹林地に囲まれた自然豊かな環境が広がります。
- ・湖畔から望む富士山の他、富士山と並んで南アルプスを望むことができます。

#### 【史跡・寺社】

- ・徳富蘇峰に関連した施設や資料館を始め、富士ニューグランドホテルの跡地等、別荘地としての歴史とこの地を訪れた著名人の足跡が多数残されています。
- ・別荘地開発以前には入会地としての歴史を有しており、昔は甲斐への交通の要所となっていた歴史を伝える馬頭観音などの遺構も見られます。

#### 【祭り・イベント】

- ・紅葉まつりは、地区の村民の取組みから始められて、今では村の主要な観光イベントとなっています。今でも地区の人の協力により充実が図られています。
- ・昭和時代に行われていた遊びやスポーツとして、スキー、結氷した湖上でのカーリング等、行楽地としての歴史があります。
- ・現在では、KABA バスやわかさぎ釣りのドーム船等の行楽地としての遊びの発着場所となっており、観光客が山中湖でレジャーを楽しむ際の窓口となっています。

#### 【くらし】

- ・山中湖情報創造館は村の図書館として、村の様々な情報を発信しており、多くの人に利用されています。また、山中湖情報創造館が位置する文学の森は、複数の文化施設が整備されており、村民の学習の場のみでなく観光客が立ち寄る場としても活用されています。

## ⑤花の都公園展示エリアの特徴

### お花畑や溶岩樹型といった村の自然を楽しめる地区

花の都公園は富士山を背景にお花畑の景観が楽しめる山中湖村を代表する観光スポットです。富士山とお花畑の景観はテレビやCMでも取り上げられています。

一方で、国の天然記念物であるハリモミ純林や、この基盤となる溶岩台地を感じられる花の都公園内の溶岩樹型等、富士山の麓の大自然を観察できる場もあります。

この一帯は、かつてアメリカ軍が開墾して村でも早い段階で田圃が出来た場所であり、田んぼとしての利用やキャベツ畑としての利用など、土地の歴史を知ることでも村人の暮らしに触れることもできます。

#### 【自然・景色】

- ・花の都公園では富士山を背景にチューリップ等の花畑の景観が楽しめ、観光客の立ち寄りスポットとなっています。
- ・花の都公園に隣接して国の天然記念物であるハリモミ純林が広がっており、このハリモミ純林やこの林に生育する植物類は貴重な自然資源です。また、花の都公園では、しあわせの木やロックガーデンといった展示用の植栽も魅力の一つです。
- ・溶岩に関する宝も多くあり、ハリモミ純林が溶岩台地の上に発達した林であることや、花の都公園内に整備された溶岩樹型地下観察体験ゾーンから、溶岩台地について学ぶ場としても適した場となっています。
- ・桂川ではホテルが見られます。昔は今よりも多くのホテルが確認されており、かつての景観も含めて宝として挙がっています。

#### 【史跡・寺社】

- ・溶岩の固い台地をアメリカ軍が開墾したことで耕作が可能になった歴史や、稲作を行うために内野用水を引いた歴史があります。
- ・開墾されてからは、田んぼ、キャベツ畑、花の都公園と、利用が変遷しています。今は、観光用の花畑が主であり、公園の一角で市民農園等の畑作りが行われています。

#### 【祭り・イベント】

- ・花の都公園では、冬の山中湖村アートイルミネーションや春のライトアップ等の季節ごとのイベントが開催されています。
- ・公園が整備される以前に、一帯が田んぼであった頃には、田んぼでスケートを行っており、この様子が宝として挙がっています。

#### 【くらし・料理・工芸品】

- ・花の都公園でブドウを栽培して製造している山中湖ワインは村の特産品です。
- ・花の都公園では、とうもろこしや花畑など様々な耕作が行われており、ヤツガシラの生産など、新しい特産品の開発に取り組んでいます。



## 5. 推進体制

### (1) 村民が主体となり活動を展開するための段階的な推進体制

宝の掘り起しを開始した平成25年度から本計画策定までの3年間で初動期と呼びます。将来的には村人が主体となった組織づくりをめざしますが、活動の開始時には、行政がサポートをします。このため、今後の推進体制を「試行期」「実践期」と段階を分けて考えます。

移行にあたっては、山中湖情報創造館が核となり、村民の活動をサポートしていきます。(図 推進体制のステップアップイメージ参照)

はじめに、試行期は、宝を使ったまちづくりの活動を普及すると共に、村民のリーダー、プレーヤー、サポーターを育成、増加させていくことを目指します。次に、実践期は、試行期に集まったリーダーやサポーター、プレーヤーが組織化し、村民の活動団体を形成し、多様なまちづくりの事業を推進します。

リーダー	: 地域を良くしたいという信念を持ち、村民の様々な意見を引出し、まとめ上げる人材・村や情報創造館と連携して村人の活動を推進する人材。
プレーヤー	: 興味を持って活動に参加する多様な個々の人材・得意分野を活かし活動へ参加する村民。まちづくりのラボとなる企画を立ち上げて人を集め、実践する人材。
サポーター	: 主体的に行動できる人材・リーダーをサポートし、他のメンバーをつなぐ中間管理的役割を担う人材。

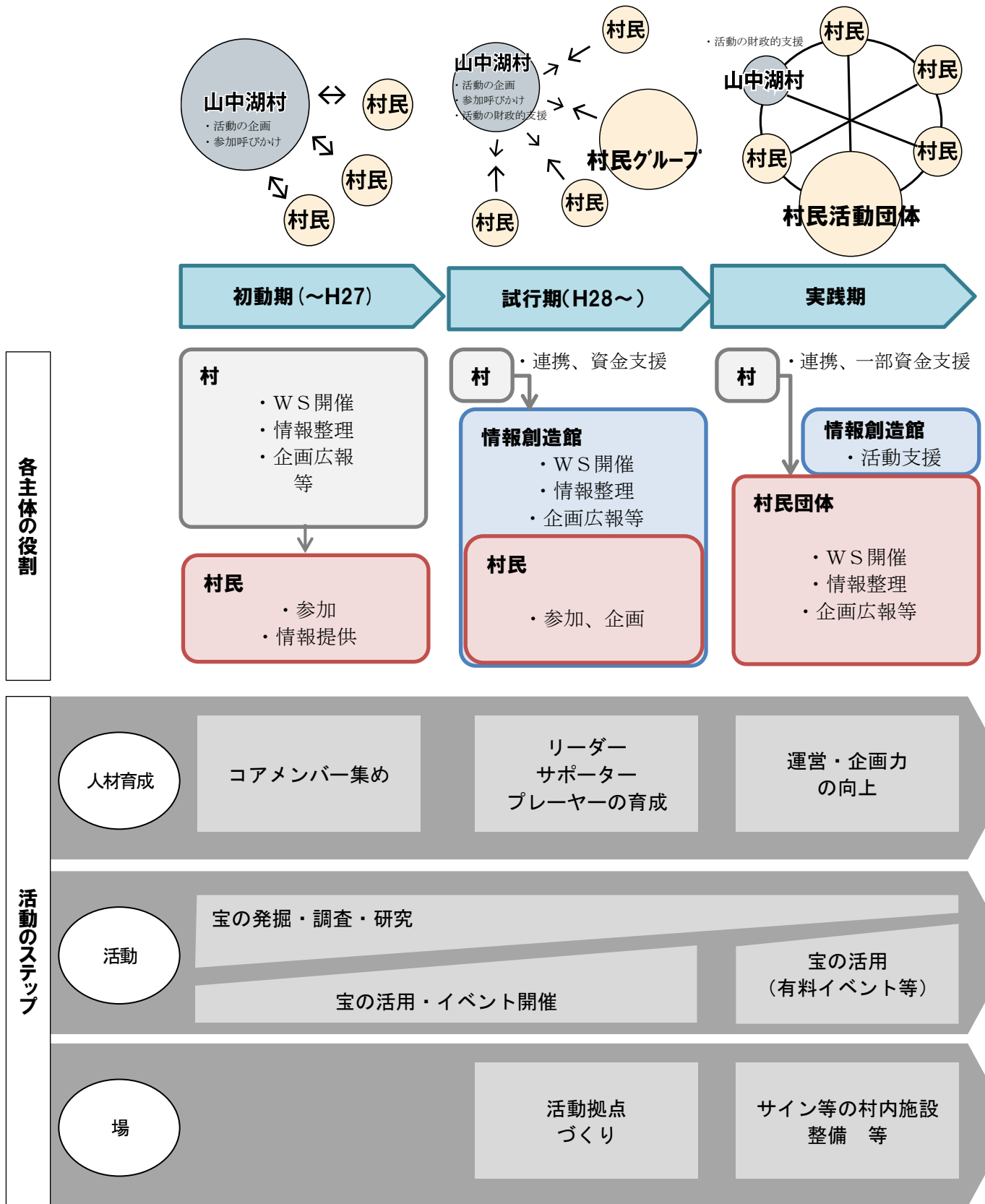


図 推進体制のステップアップイメージ

## (2) 連携を図る団体等

山中湖村におけるまちづくりは、区会ごとに話し合いや活動が行われています。このため、エコミュージアムとしての地区のあり方の検討や、地区の「宝」の発掘・調査・活用に関しては、区と連携や調整を行いながら進めます。

また、個別の「宝」や、宝の区分ごとの調査や研究については、活動内容が重複する可能性もあるため、既存の村民活動団体と連携や調整を図ります。

山中湖村は、観光を主な産業としており、村内には旅館組合等の観光関連の団体が存在します。むらあるきツアーや、村の名物となる特産品づくり等、宝の活用も視野に入れ、観光客との接点でもあるこれらの団体との連携を図ります。特に宝の活用に関して村の観光に関連の深い事業団体とも連携をとり、村の体験ツアーや特産品の開発等の取組みを進めます。

これらの主な団体は、協議会の構成員や、宝のラボ（企画）や部会において取り組み内容に応じて連携を図ります。

### 【活動の連携を図ることが想定される山中湖村の主な村民活動団体】

各展示エリア、コア施設の代表：山中湖村は山中、平野、長池、旭日丘の4地区から成り、それぞれに区会を設けて地区の行事の他、地区の維持管理に関わる取組みが実施されています。このため、まちづくりにも関連する活動であるエコミュージアムの活動においても地区と連携を図ります。また、展示エリアとなっている花の都公園、コア施設である山中湖情報創造館の指定管理者とも連携を図ります。

**村民活動団体：**個別の宝の調査や研究、活用については、すでに活動を行っている自然や歴史・文化等の分野の活動団体と連携することで、効率的かつ効果的に宝の発掘・調査・研究および活用を行うことができます。これらの団体とは、特にエコミュージアムの部門別の活動の中で連携を図ります。

区分	団体名(例)
まちづくり	山中地区まちづくり委員会（竹灯籠まつり・フットパス等） 花植えボランティア 等
自然観察等	富士山自然学校、山中湖エコツーリズム協議会 等
伝統・文化	山中明神太鼓・山中諏訪神社神楽保存会 山中湖平野天満宮神楽保存会 等
くらし・文化	食生活改善推進委員会、青年会 等

**観光関連団体等：**観光を主産業とする山中湖村では、山中湖観光協会があり、また複数の旅館組合が活動しています。観光振興にあたっては、これらの団体と連携を図ることで観光振興にも資する活動展開を図ります。

区分	団体名(例)
観光関連事業団体	山中湖観光振興公社、山中湖村観光協会、富士急行株式会社等
観光関連団体	山中湖観光協会公認団体（以下団体）等 ・山中湖観光旅館組合（山中・旭日丘地区） ・山中湖平野旅館民宿組合（平野地区） ・富士・山中湖・ペンション・旅館・民宿組合会（山中地区） ・山中湖ペンションユニオン（山中・平野・旭日丘地区）

### (3) 試行期・実践期の推進体制

#### ① 試行期（およそ1、2年）

山中湖情報創造館が主体となり、集まった村民とともに活動を推進します。連携を図る団体等は、協議会の構成員となるか、宝ボの取組み内容等により宝の調査・研究や、イベント開催などの活動を連携して行います。

「山中湖宝ボ協議会（仮称）」を山中湖村が立ち上げ、この会議において、山中湖宝ボの活動の進捗確認等を行います。

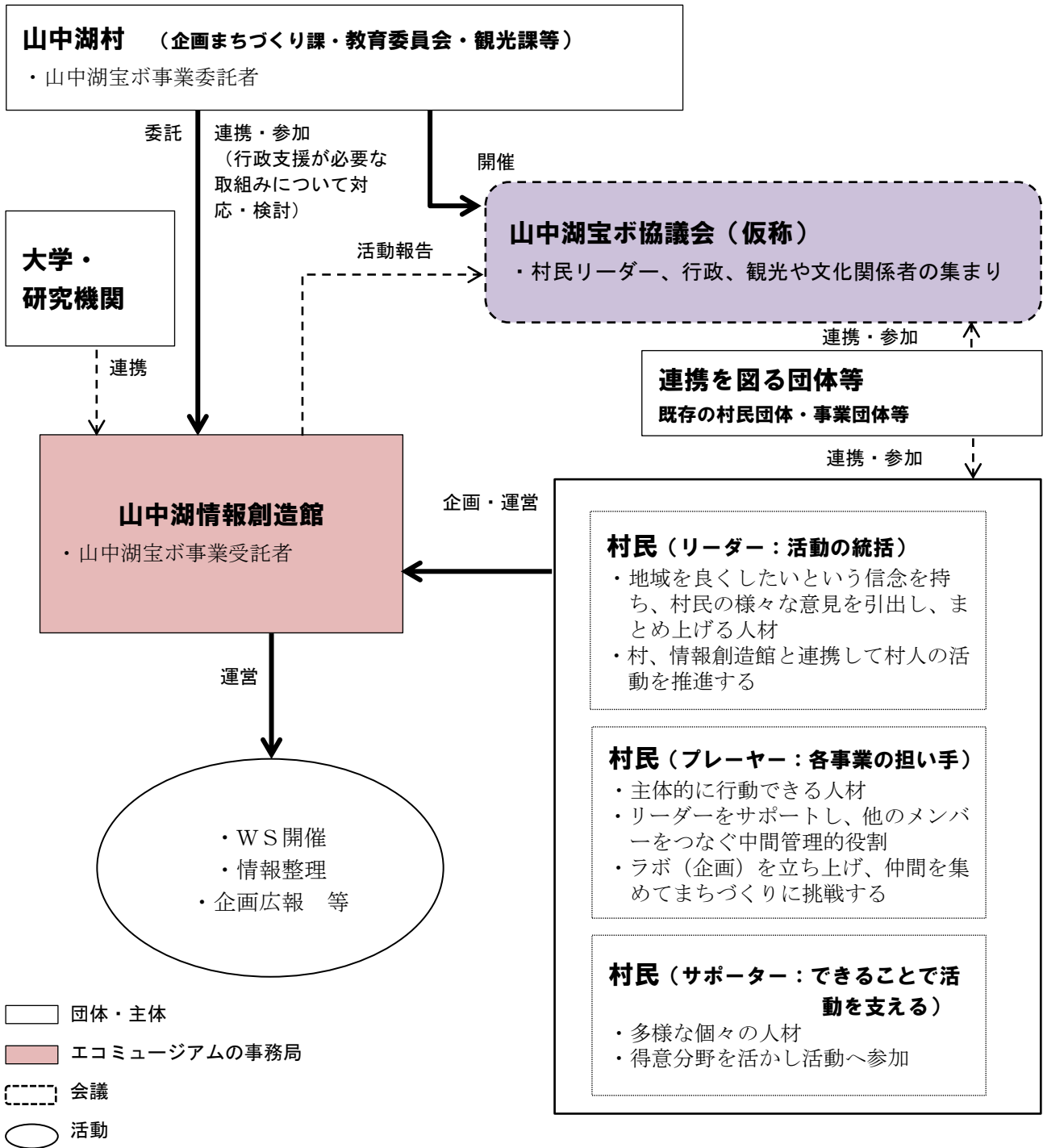


図 推進体制【試行期】

**【山中湖宝ボ協議会（仮称）】※新規会議**

<p>主な参加者</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山中湖村議会</li> <li>・ 村民（活動の代表者）</li> <li>・ 各エリア・施設代表（区長、山中湖観光振興公社・情報創造館館長）</li> <li>・ 村民団体代表（富士山自然学校・食生活改善推進委員会）</li> <li>・ 観光関連団体（山中湖観光協会）</li> <li>・ 庁内関係課（生活産業課・教育委員会・いきいき健康課・観光課）</li> <li>・ 事務局：企画まちづくり課</li> </ul>
<p>目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山中湖宝ボを継続的に推進するために、山中湖村全域を対象とした戦略の立案、エコミュージアムへの助言機関としての役割を担う。</li> </ul>
<p>主な活動</p>	<p>■試行期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 村全体で動いている観光や、まちづくり活動とエコミュージアムの取り組みとの連絡調整を行う。</li> <li>・ エコミュージアムの活動の進捗状況確認を行う。</li> </ul> <p>（■実践期）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 村全体で動いている観光や、まちづくり活動とエコミュージアムの取り組みとの連絡調整を行う。</li> <li>・ 社会状況などに応じたエコミュージアムの取り組みの方向性を見直しや具体的な活動の検討を行う。</li> <li>・ 協議会は、エコミュージアムの取り組みについての進捗状況の評価を行う。</li> </ul>

②実践期（3年後以降）

試行期に集まった村民のリーダーやサポーターが核となり、エコミュージアムの事務局を形成し、活動を推進します。活動に参加する村民が主体となり部会を立ち上げ、宝を使ったより専門的な活動を事業化させます。

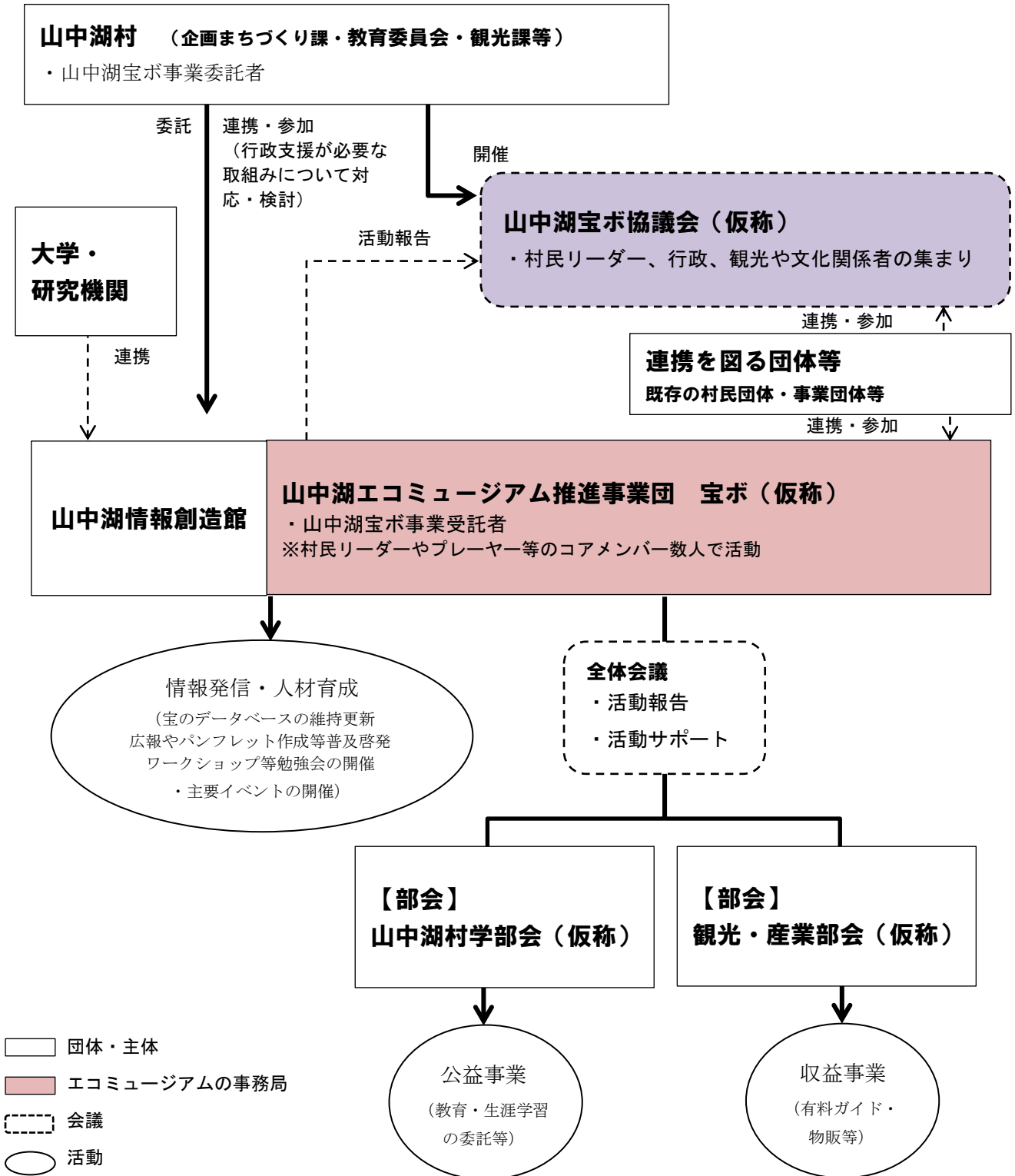


図 推進体制【実践期】

**【山中湖エコミュージアム推進事業団 宝ボ（仮称）】※新規団体**

主な参加者	宝つなぎワークショップの主要な参加者や達人等の有志数名から成る
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコミュージアムを実現する「本部」としての機能を担う。</li> </ul>
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「宝」のデータベースを管理し、コアやサテライト、WEBなどを活用して宝の情報発信、「宝」を活用したツアーや勉強会の開催を行う。</li> <li>・大学や研究機関等と連携して、勉強会を開催するなど、山中湖村の宝に関する情報収集や調査研究を促進する。</li> <li>・まちづくりを担うシンクタンクとして、幅広く地域のまちづくりを担う人材育成、観光振興や生涯学習、地域の清掃から整備、地域資源の保全についての取り組みを具体的に協議・検討して実施することでエコミュージアムの活動を推進する。</li> <li>・収益団体として、まちづくりや村の活性化に向けた事業を受託して活動を行う。</li> </ul> <p><b>■部会■</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎活動の中から、宝を使ったより専門的な活動を行う取り組みについて部会を立ち上げて、取り組みの事業化を行う。</li> <li>・部会は、活動に参加する村民が主体となり立ち上げる。</li> <li>・部会は村の教育、生涯学習、観光、産業などに関わる取り組みごとに立ち上げ、それぞれ実働組織として事業を実施する。（仮称）山中湖村学部会（教育・生涯学習）、観光・産業部会等。</li> <li>・部会では、公益事業の受託や収益事業を運営して、自立運営を目指す。</li> </ul>



## 6. 宝の活用プログラム(案)

### (1) 活動のロードマップ

今後、エコミュージアムで取り組む宝の活用プログラム案を、5つの行動指針の区分に沿ったロードマップとして次ページに示します。このロードマップは、平成27年度に実施された村民意見換会において提案があった取り組みについて、加筆、整理を行ったものです。

ロードマップに示した活動は、今後、村民が話し合いながら実現させていきます。着手する時期は目安であり、実際の取り組みについては、活動するメンバーが集まり、技術や労力などが整い、着手できる企画から挑戦していきます。

尚、平成28年度は、これまでの取り組みの発展となるフットパスやウォークラリーの充実と、むらあるきツアーを通したガイド等の人材育成の取り組み（ロードマップの表に桃色で塗りつぶした活動）について着手することを想定しています。

表 活動のロードマップ

●：村民意見交換会において「すぐ着手したい」人が多かった取組み

区分	細項目	短期（目安：平成28年～）※試行期
人材育成	A リーダー プレイヤー サポーター の育成	○A-①まちづくり活動報告会の開催 ●A-②村の人を集めた宝の勉強会 ●A-③むらあるきガイドの育成 (人を引率して宝を解説できる人づくり。宝を保全する人づくり) ●お散歩ガイドの育成とイベント開催(健脚でなくても近場をのんびりあるいて楽しめる案内ガイド) ○宝の達人の発掘
	B 生涯学習	●B-①村民むらあるきツアーの開催 ●B-②自然観察会(ホテルの観察会を開く等) ●B-③郷土料理研究
山中湖村学	C 子どもの 教育	●C-①学校の先生向けの宝の勉強会 ●C-②村の子ども向け宝の学習会 (方言を伝える等)
	D 着地型観光の創 出	●D-①フットパスのコースマップづくり ●D-②間伐材を利用した焚火の会の開催(まずは村民対象、徐々に観光客も入れていく) ●富士講ルートの発掘と紹介 ●インGRES(実際の場所に行くことで陣地を広げるWEBを使った位置情報ゲーム)への宝地点の登録
観光・産業	E 特産品の 開発	●E-①村の食事処MAPづくり(かつ丼を食べられる店一覧等) ●E-②郷土料理コンテストの開催(地域毎に研究開発する) ●食の名物づくり(一般的なものでも定番にする等)
	F 活動報告 宝・観光やくら しの情報発信	○F-①宝や活動情報の発信(ニュースレターやホームページ等) ○F-②空間展示の実施(パネル展示、宝の紹介コーナー等) ●宝のホームページを紹介するチラシやポスターの作成 ●インターネットで良い風景を紹介する。
基盤整備	G 保全	●G-①宝の保全活動の実施 ●桂川とホテルの保全(ホテル調査の開始) ●シロバナのフジアザミの保全(盗掘対策等)
	H 整備	●H-①宝のサイン整備 ●H-②フットパスコースの整備(草刈、サインの設置) ●サイクリングロードの草刈り ○H-③コア・サテライトの設置

丸数字は、次項目の「(2) 宝の活用プログラム(案)の実施手順」に示したプログラム案の丸数字と対応しています。

●：村民意見交換会において「将来的には着手したい」人が多かった取組み ■ 桃色セル：平成28年度着手

中期(目安:3年後)※実践期	長期(目安:5年後)※実践期	その他展開例
○まちづくり活動報告会の開継続 ●勉強会の継続	○まちづくり活動報告会の開継続 ●勉強会の継続	○A-⑤山中湖村検定づくり
●むらあるきガイドの育成 (イベントを企画して運営できる人づくり)	●むらあるきガイドの育成 (技術をつたえる人づくり・ガイド卒業生による若手ガイドの育成) ●有料ガイドの開始(収益を人づくりに還元)	
●A-④人材登録制度の設置(むらあるきガイド・達人バンク等)		
●村に関連した有名人の調査を行う (仲正路彰等) →テーマ別の宝の調査研究の実施 (歴史、自然等)		○B-④山中湖村学カリキュラムの整理 (生涯学習教室)
●学校の先生向けの宝の勉強会(継続)	●学校の先生向けの宝の勉強会(継続)	○校外学習での宝の勉強 ○子どもの宝さがしの開催
●村の子どもへの宝の学習会開催	●村内外の子どもが一緒に体験する山中湖村についての学習会開催(どんどん焼き体験等)	○伝統、季節行事の伝承 ○C-③教育副読本の作成
●D-⑤各種観光ツアーの提供 ●季節毎のむらあるきツアー(観光客受入)の開催 ●農業の体験観光の開催	●D-③自転車の乗り捨てシステムの整備 ●D-④セグウェイを使った宝めぐりツアーの開催 ●自衛隊の演習林に入ることができる体験ツアー ●村の贅沢おもてなしツアーの開催	○自転車を活用した宝めぐりMAPづくり ○各種宝めぐりツアーの通年受入れ体制整備
●E-③飲食店等で地場野菜フェアの開催(郷土料理の提供等)	●コイ・ウナギ・シジミの名産品化 ●シジミとりの復活 ●恋愛成就や安産の村としてPRする。 (コイを食べる)	○E-④特産品(加工食品)の開発
○宝や活動情報の発信(継続) ○空間展示の継続	○宝や活動情報の発信(継続) ○空間展示の継続	
○F-③書籍や商品の制作・販売 ●デザイン性の高い宝のパンフレットづくり ●山菜取りのマナー本づくり ●自然学校や花の都公園のイベント、フットパスイベントを案内するポータルサイトの開設		○宝の紹介書籍の発行(「山中湖を訪れた著名人」等)
●桂川とホテルの保全(ホテルの人工飼育開始)		○F-④山中湖村ポータルサイトの作成 (オール山中湖の情報発信の実現)
●フットパスコースの整備(ベンチやトイレの設置) ●シジミ採りができる場の整備	●フットパスコースの整備 (コースマップの設置等、宿泊施設等との連携)	

## (2) 宝の活用プログラム(案)の実施手順

宝の活用プログラム(案)は、今後、村民の皆さんが宝を使ったまちづくりを進める際に、参考とする宝の活用のアイデア集です。

宝を活用したプログラム(案)には、先に示したロードマップの中から主な取組みを抽出して、「人材育成」「山中湖村学の充実」「観光・産業の振興」「情報発信の充実」「宝の保全・基盤の整備」の5つの行動指針毎に示し、取組みの概要や取組みを進めるための推進方策について示しています。

実施主体やプログラムの実施時期は活動着手の目安や参考として示しています。実際に着手する際には、実施内容や時期、実施主体を関係者で調整を行います。

### ※実施時期

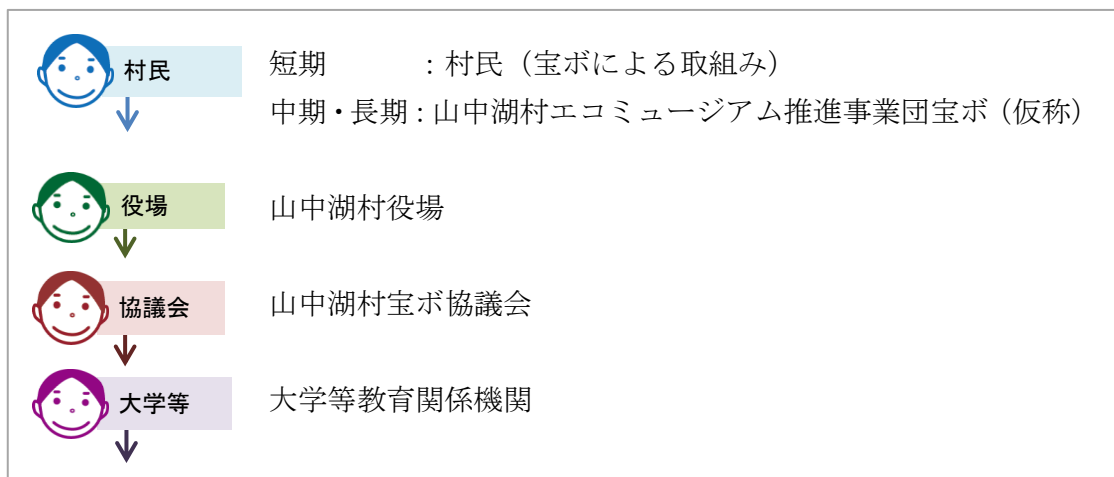
短期：1～2年以内実施する（推進体制の試行期に該当）

中期：3～5年以内実施する（推進体制の実践期に該当）

長期：5年後以降に実施する。（推進体制の実践期に該当）

### ※推進方策図

以下に示すマークで、実施主体を示しています。活動を推進する際の実施内容を矢印に沿って実施します。



## ①人材育成

山中湖村エコミュージアムでは、村民一人ひとりが研究員として、宝についての理解を深め、宝を使ったまちづくりに参加していくことを目指します。このため、全村民が宝について知ることができる機会を設けます。また、宝についての知識や活動を次世代に継承していくことができるよう、宝について村民や来訪者に伝えたり、宝を使ったまちづくりを企画して、実行していくことができる人材を育成します。さらに、活動が継続、拡大するように活動の発表やシンポジウムの開催などを通して、人や各種団体のネットワークの構築を促します。

実施時期	プログラム名 (案)	概要
短~長期 (実施中)	A-①まちづくり活動報告会の開催 (村の未来発表会)	<ul style="list-style-type: none"> <li>山中湖村エコミュージアムの活動報告を行う。</li> <li>まちづくりに関わる各団体や個人との交流を深める。</li> </ul>
短~長期 (実施中)	A-②村の人を集めた宝の勉強会	<ul style="list-style-type: none"> <li>村民が集まり交流を深めながら宝についての知識を得る機会を設ける。(隣人祭り等の食事会や間伐材を用いた焚火の会の開催、むらあるき等)</li> </ul>
短~長期	A-③むらあるきガイドの育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>むらあるきガイドの育成を行う勉強会の開催やガイド育成ツアーを実施。</li> <li>ガイドする内容については、お散歩ガイドなどの短距離を楽しむものから、ハイキング等の山林を歩くもの、まちあるき等ニーズに合わせて養成する。</li> </ul>
中期~ (実施中)	A-④人材登録制度の設置 (むらあるきガイド・達人バンク等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>むらあるきガイドの登録制度をつくり、一定のレベルで登録、WEB ページで公開する。</li> <li>地域の歴史・文化・自然といった資源についての「達人」を発掘、登録する。</li> <li>達人による地域学習のプログラムについて検討し、各種のプログラム実施へ繋げる。</li> </ul>
長期 (その他)	A-⑤山中湖村検定 (ご当地検定) づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>宝についての知識を持った人材育成の一環として、ご当地検定 (山中湖村検定) を実施する。</li> <li>宝に関するテキストや設問を作成して検定を実施する。</li> </ul>

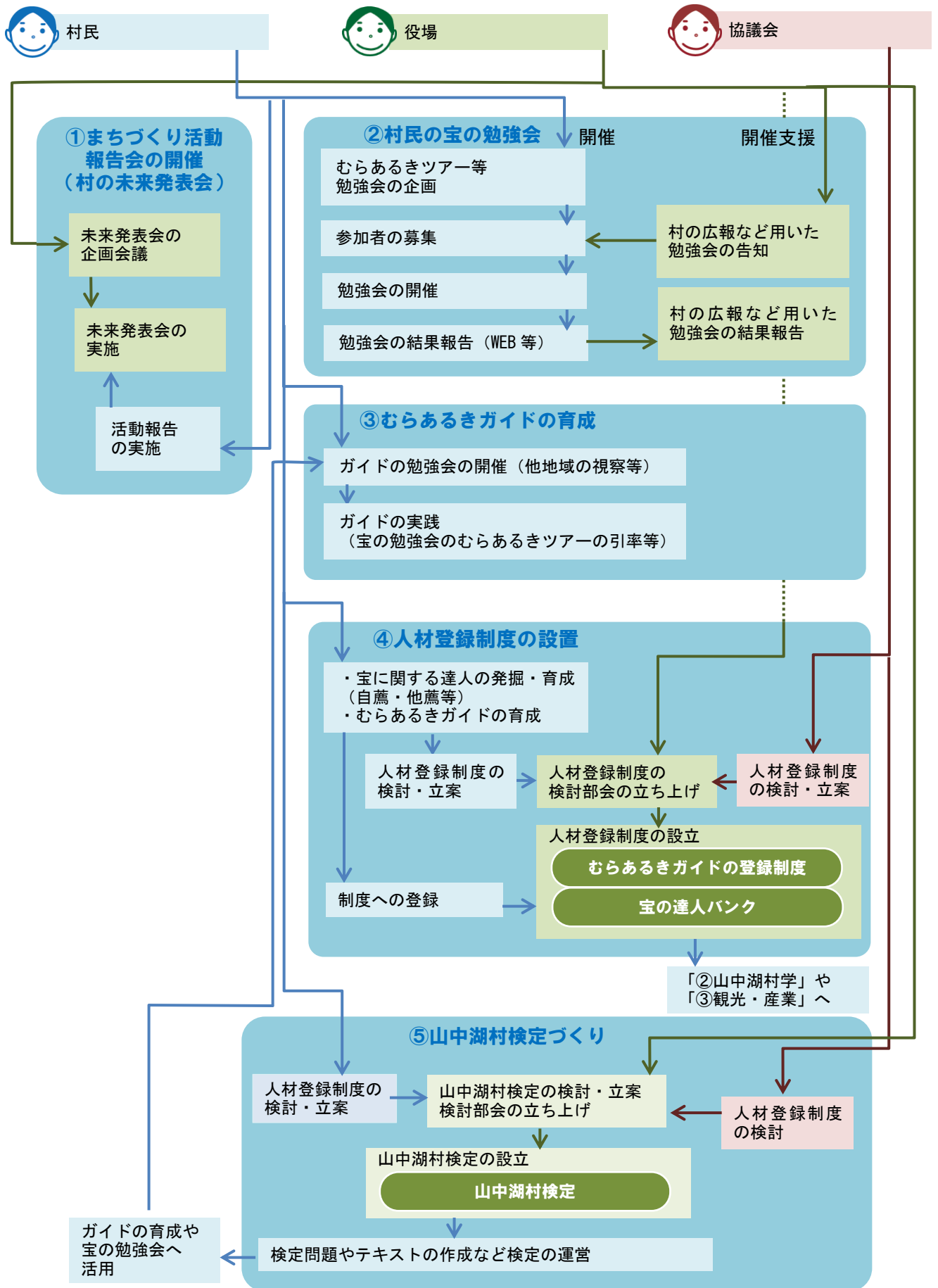


図 人材育成の推進方策図

## ②山中湖村学の充実

山中湖村の地域の文化を継承する学問として、村民が宝の調査・研究を通して「山中湖村学」を築きます。山中湖村学は、生涯学習や、学校・子どもへの教育に活用して、多くの村民へ村の宝について伝えます。

### ●生涯学習（社会教育講座等）

村民の生涯学習の一環として村で開催する社会教育講座や生涯学習講座、山中湖情報創造館の各種イベント事業等の一部に宝の発掘・調査・研究の取組みを活用します。

実施時期	プログラム名（案）	概要
短期	B-①村民むらあるきツアーの開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・達人やむらあるきガイドの村民が案内役となり、宝を見て歩く、村民対象のむらあるきを開催。</li> <li>・宝の魅力などを村民に伝える。</li> </ul>
短期	B-②自然観察会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四季ごとの植物観察会の開催。</li> <li>【関連活動：富士山自然学校】</li> <li>・ホテルの観察会 等</li> </ul>
短期	B-③郷土料理教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の「ご婦人」を講師にした、おつけだんごやみうりだんご、南蛮味噌、山椒佃煮、山菜料理などの料理教室開催。</li> <li>・宝として抽出された郷土食を活用した食育プログラムの開催。</li> </ul>
長期 （その他）	B-④山中湖村学カリキュラムの作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育講座等で実施する、宝についての調査研究結果をまとめた、山中湖村について総合的に学べる講座の検討、構築。</li> </ul>

### ●学校・子どもへの教育

宝について、子ども達に紹介すると共に、子どもにとっての宝を探す活動を行い、地域への理解と愛着を深めます。

実施時期	プログラム名（案）	概要
短期	C-①学校の先生向けの宝の勉強会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちと接する先生に対する宝の勉強会を開催して、先生に村の宝について周知を図る。</li> </ul>
短期	C-②村の子ども向け宝の学習会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の宝について子どもたちに伝える学習会を開催。</li> <li>・文化の伝承と世代を超えた交流の場としての活用。</li> <li>・子どもの宝さがしの実施。</li> <li>・村で実施している放課後児童クラブや夏休み研究の一環とする。</li> </ul>
長期 （その他）	C-③教育副読本の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村の宝について子ども達に紹介する冊子を作成、配布。</li> </ul>

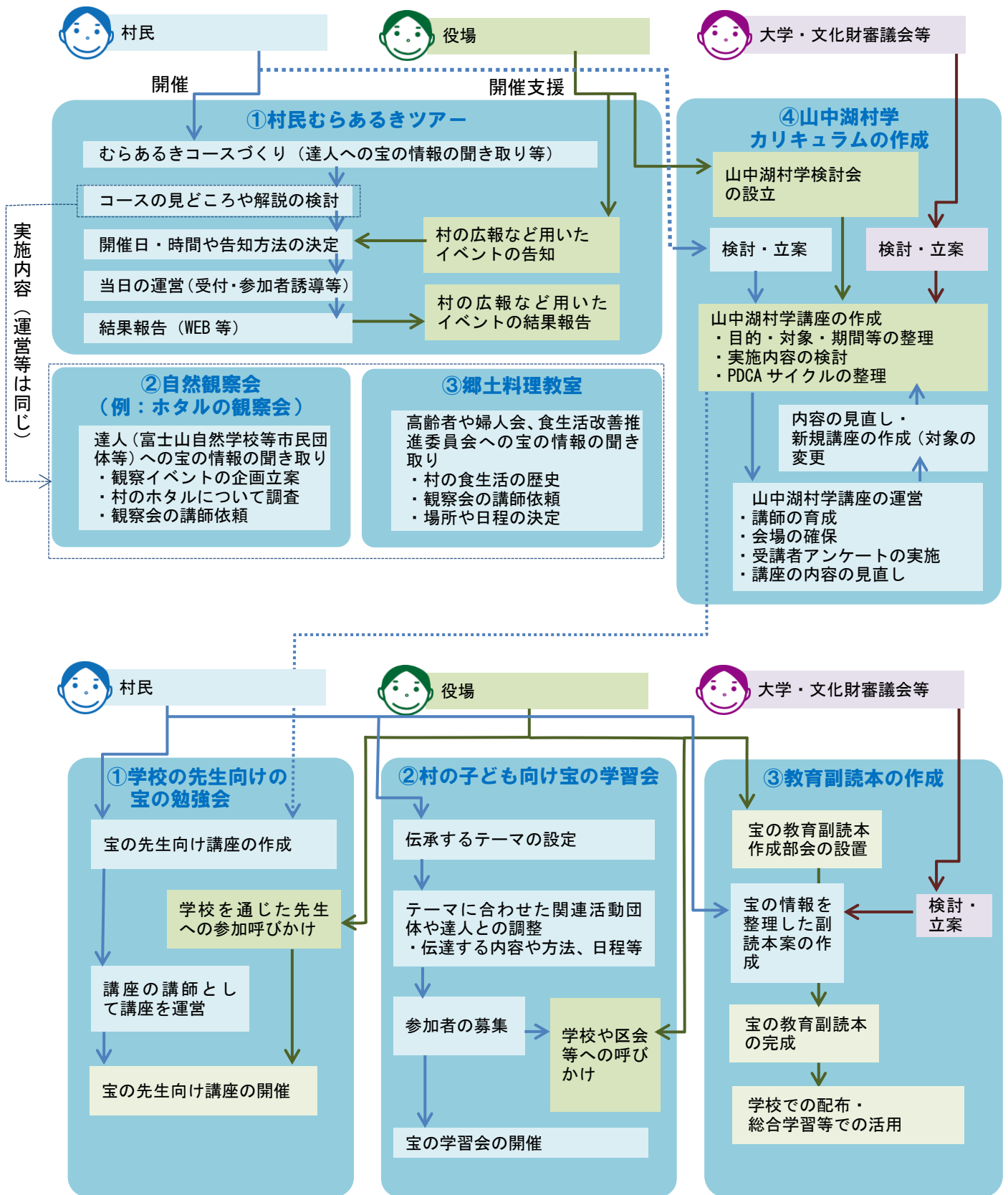


図 山中湖村学の充実の推進方策図



### ③観光・産業の振興

宝を村の「観光・産業の振興」に活用します。特に村の主な産業である観光について、着地型観光の充実を図ります。また、地域商品に付加価値をつけ、所得を向上させる特産品の開発を推進します。

#### ●着地型観光の創出

消費者志向の多様化に対応するため、地域資源、特性、季節を活かした着地型観光を創出します。以下に示した各体験は、歴史と食、自然と農業等組み合わせることで、来訪者に多様な体験を提供します。

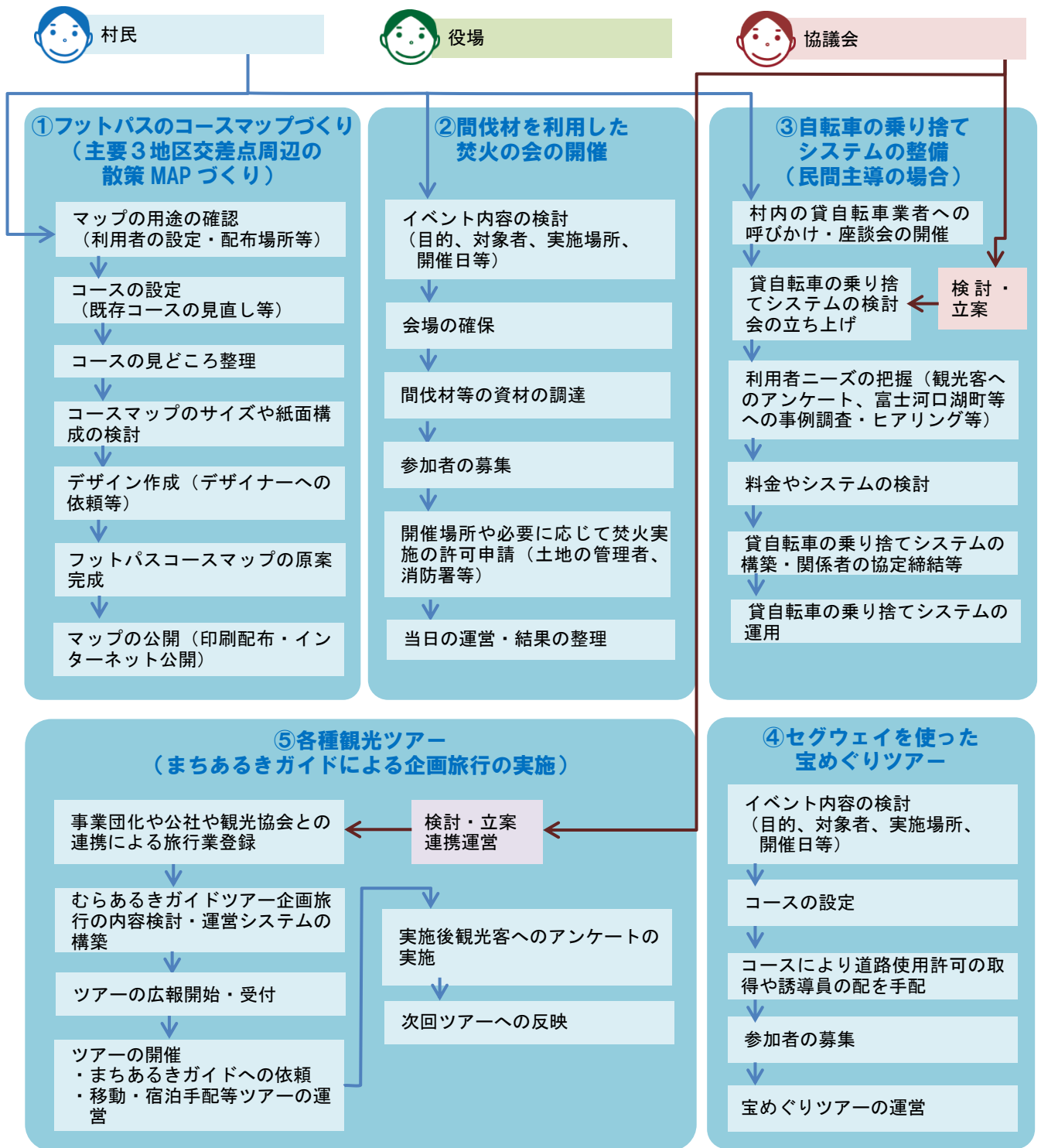
実施時期	プログラム名（案）	概要
短期	D-①フットパスのコースマップづくり（主要3地区交差点周辺の散策MAPづくり）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高速バス等の発着所であり、観光客にとっての玄関口となる主要3地区交差点の周辺の宝の散策MAPづくり。</li> <li>・作成したMAPは各交差点に設置して観光客に配布。</li> <li>【長期的には、サイクリングコースを活用し、自転車でめぐる宝マップを作成し、村の展開する自転車観光施策と共に観光客へPRを実施。】</li> </ul>
短期	D-②間伐材を利用した焚火の会の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村内の間伐材を使用して、焚火を囲みながら食事を取り談話する会を開催。はじめは村民対処で開催して、徐々に観光客が焚火を楽しめるツアーへ展開する。</li> </ul>
長期	D-③自転車の乗り捨てシステムの整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客が村内を行動しやすいように、村内各所で貸自転車を借りたり返したりできる乗り捨てシステムを導入する。</li> </ul>
長期	D-④セグウェイを使った宝めぐりツアーの開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セグウェイを使って宝を見て回るツアーを開催する。</li> </ul>
中～長期	D-⑤各種観光ツアーの提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宝を活用した観光ツアーの企画・募集。</li> <li>・まちあるきガイドや達人による観光ガイド、案内の実施。</li> </ul>
	歴史文化体験	(案)村に滞在した文化人の足跡をたどるツアー (案)富士講ルートをめぐるツアー
	自然・アウトドア体験	(案)村の巨木をめぐるツアー (案)野鳥とホタルの観察ツアー (案)入会地への立ち入りツアー 【関連活動：富士山自然学校】
	食体験	(案)山菜などの自然のめぐみを学ぶツアー（しんどめ、ダズマ等山中湖村ならではの呼び方も伝承）。 (案)村の郷土食を料理して食べるツアー

	農業体験	(案)耕作体験、花の種まき、野菜の収穫体験などの農業体験ツアー 【関連活動：花の都公園】
--	------	---

### ●特産品の開発

地域で生産される物産に付加価値をつけ、地域の所得を向上させるための特産品開発を行います。

実施時期	プログラム名 (案)	概要
短期	E-①村の食事処マップづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村の食事をもっと観光客に知って楽しんでもらえるように食事処マップを作成。</li> <li>・作成した地図は、宿泊施設や観光案内所で配布する。</li> </ul>
短期	E-②郷土料理コンテスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「粉もの料理コンテスト」などの宝となっている食材をテーマとしたコンテストを開催し、村の名物となる料理を発掘。</li> <li>・伝統料理のみでなく、素材を活用した新しい料理(トウモロコシ粉のクレープ等)についてもコンテスト等により発掘。</li> <li>・地区毎に実施して、地区毎の名物を作る。</li> </ul>
中期	E-③飲食店での地場野菜フェアの開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場野菜を使った料理を提供するフェアを開催して、地場野菜のおいしさを伝える。</li> <li>・村内飲食店が協力して、店舗ごとにフェア用のメニューを考案する。</li> </ul>
長期 (その他)	E-④加工食品の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南蛮味噌や山椒佃煮等の保存食を製造・販売する体制作りを行い、事業化に向けた商品開発、販売を実施。</li> <li>・開発した加工品を販売する仕組みや販路の開拓、都市部のアンテナショップへの出店、インターネットや通信販売等の販売体制を構築。</li> </ul>



※中期より着地型観光ツアーの開催のために村民活動を事業団化し、旅行業登録を行い募集型や受注型の企画旅行の実施を開始する。

図 観光・産業の振興の推進方策図 (着地型観光の創出)

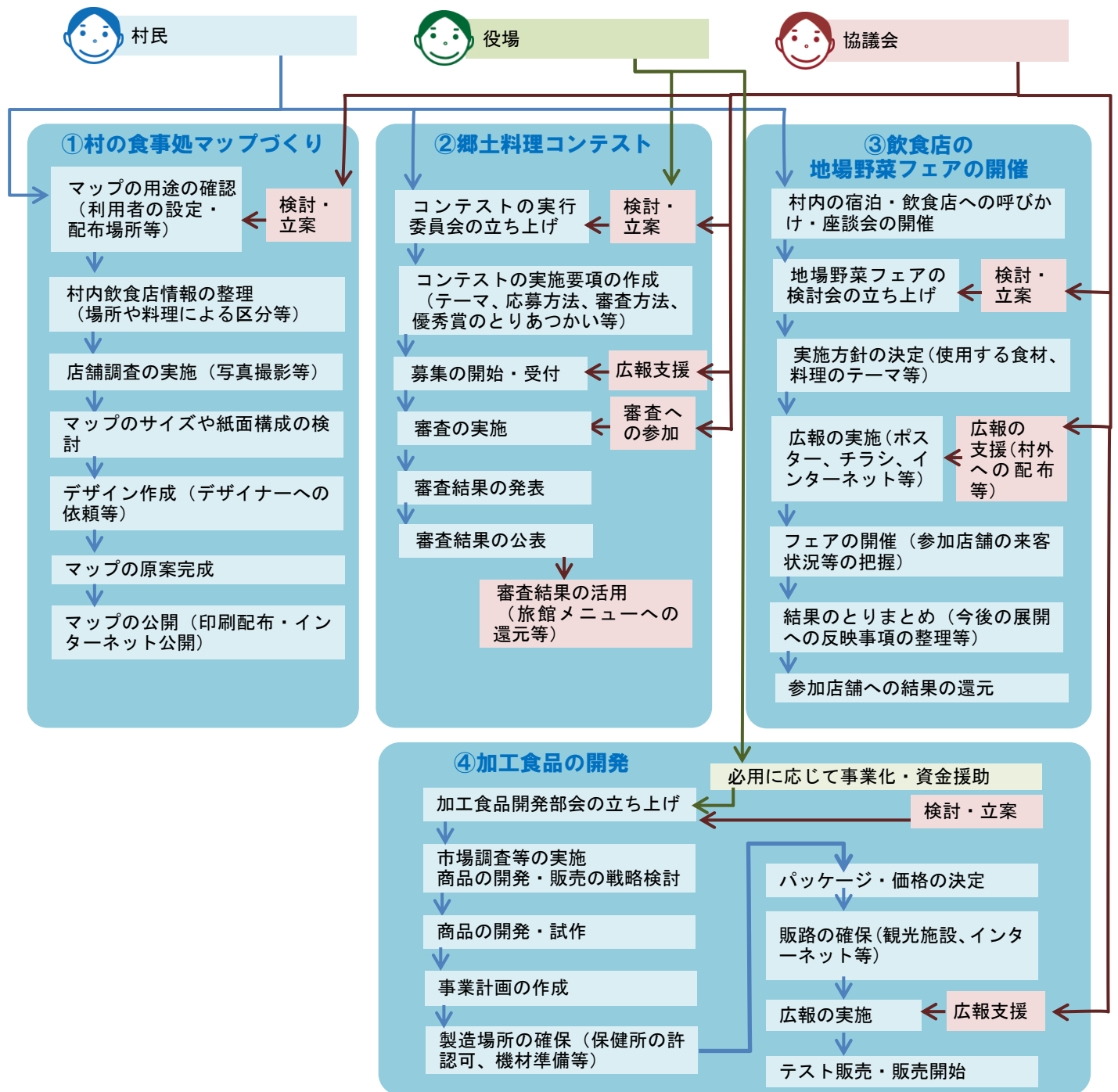


図 観光・産業の振興の推進方策図（特産品の開発）

#### ④情報発信

村の知名度を高め、エコミュージアムとしての取組みを紹介する情報発信を充実させます。インターネットや紙媒体を用いた活動の広報の他、ガイドブックやカレンダー、書籍等を充実させて山中湖村の魅力を村内外に幅広く発信します。

実施時期	プログラム名 (案)	概要
短～長期	F-①宝や活動情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>宝の情報、むらあるきルート、エコミュージアムの活動報告等をインターネットやニュースレターを用いて村内外へ発信。</li> <li>ブログやYouTube、SNSを用いた山中湖村の宝の発信（村内外・国内外の目線での村の情報発信等）</li> </ul>
短～長期	F-②空間展示の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>コア施設等に展示ブースを設置し、宝やイベントなどのエコミュージアム関連の情報を紹介。</li> </ul>
中～長期	F-③書籍や商品の制作販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報ツールとしての書籍や山中湖村の宝に関連した商品を作成。売上を活動資金として活用。</li> </ul>
	例) 宝ガイドブック	<ul style="list-style-type: none"> <li>宝の調査・研究結果をとりまとめ、自然や文化人、歴史などのテーマに合わせたガイドブックを編集・発行。</li> </ul>
	例) 宝カレンダー	<ul style="list-style-type: none"> <li>宝めぐりに準ずる宝カレンダーを発行。村民の生の声を入れた村のPRカレンダーとして販売。</li> </ul>
	例) 宝すごろく	<ul style="list-style-type: none"> <li>宝について楽しく知ってもらうすごろくを作成。村の子ども達で宝のすごろく大会を実施。</li> </ul>
	例) 郷土料理レシピ本制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>郷土料理のうち、選りすぐりのものをレシピ本として発行。</li> <li>「郷土料理教室」で人気があったレシピや「郷土料理コンテスト」の優秀作品等を盛り込む。</li> </ul>
長期 (その他)	F-④山中湖村ポータルサイトの作成(オール山中湖の情報発信)	<ul style="list-style-type: none"> <li>山中湖村に関する行政・事業者・各団体の枠を超えて、居住者や観光客が、村内のくらしや観光の情報などを把握できるポータルサイトを構築。</li> </ul>

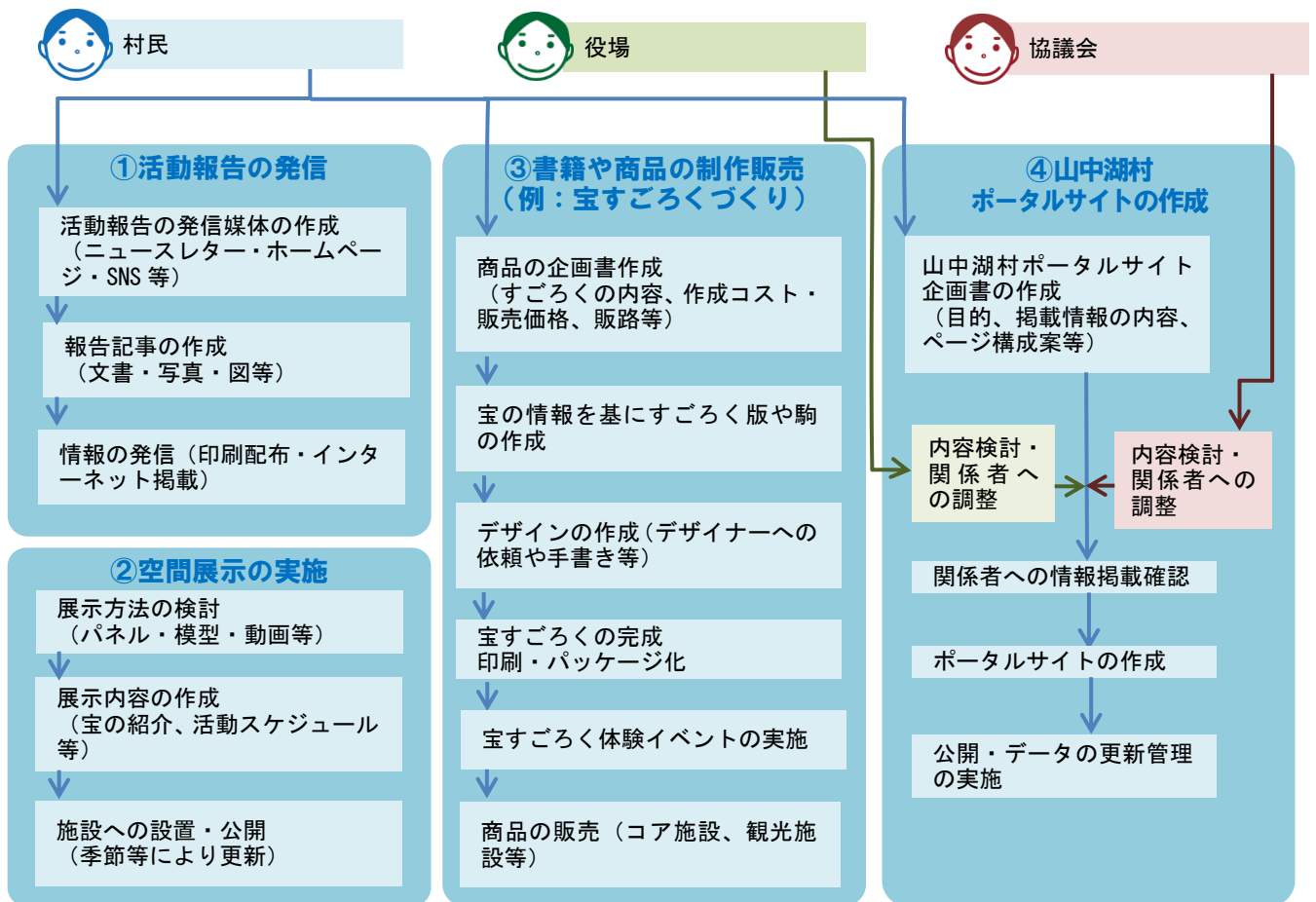


図 情報発信の推進方策図

## ⑤宝の保全・基盤整備

自然の他、史跡や野外展示物である宝の保全を行います。また、村全体がエコミュージアムとしての一体感を示すことができる基盤整備を進めます。

### ●宝の保全活動

宝を次世代に継承するため、宝が失われないように必要に応じて宝そのものや周辺環境の保全を行います。無形のものについても、記録や伝承により保全を図ります。

実施時期	プログラム名（案）	概要
短期	G-①宝の保全活動の実施	・具体的な保全対象についての保全活動を実施。
	例) 自然の保全	・ハリモミ林、ヒオウギ、クマガイソウ、村の巨木、ホタル、シロバナノフジアザミ等の保全。【関連活動：富士山自然学校：ヒオウギの補植等】
	例) 歴史・文化の保全	・平野口留番所址等の史跡の保全（草刈等周辺環境の手入れ）、既存の祭りの継承等
	例) 主要道路等の清掃活動	・サイクリングロードや登山道などの草刈やごみ拾い等の清掃活動の実施

### ●宝の基盤整備

村内にエコミュージアムの案内板や解説板、道順を示すサインを設置します。デザインや素材を統一してエコミュージアムとしての一体感を示すと共に、エコミュージアムへの来訪者に、現在地や周辺にある宝の位置等を示します。

実施時期	プログラム名（案）	概要
短期	H-①宝のサインの設置	・既存の公共看板や説明板との調整も図りながら、コア、サテライト、主導線、フットパス等に宝の解説等を示すサインを設置
短～長期	H-②フットパスコース（副導線）の整備	・宝をめぐるための散策路を整備。 ・散策路やハイキングコースの補修等維持管理。
短～中期	H-③コア、サテライトの設置	・来訪者にエコミュージアムの情報を伝え、休憩等にも利用できる施設として、既存建物も活用して施設を設置。 →主要3地区交差点整備

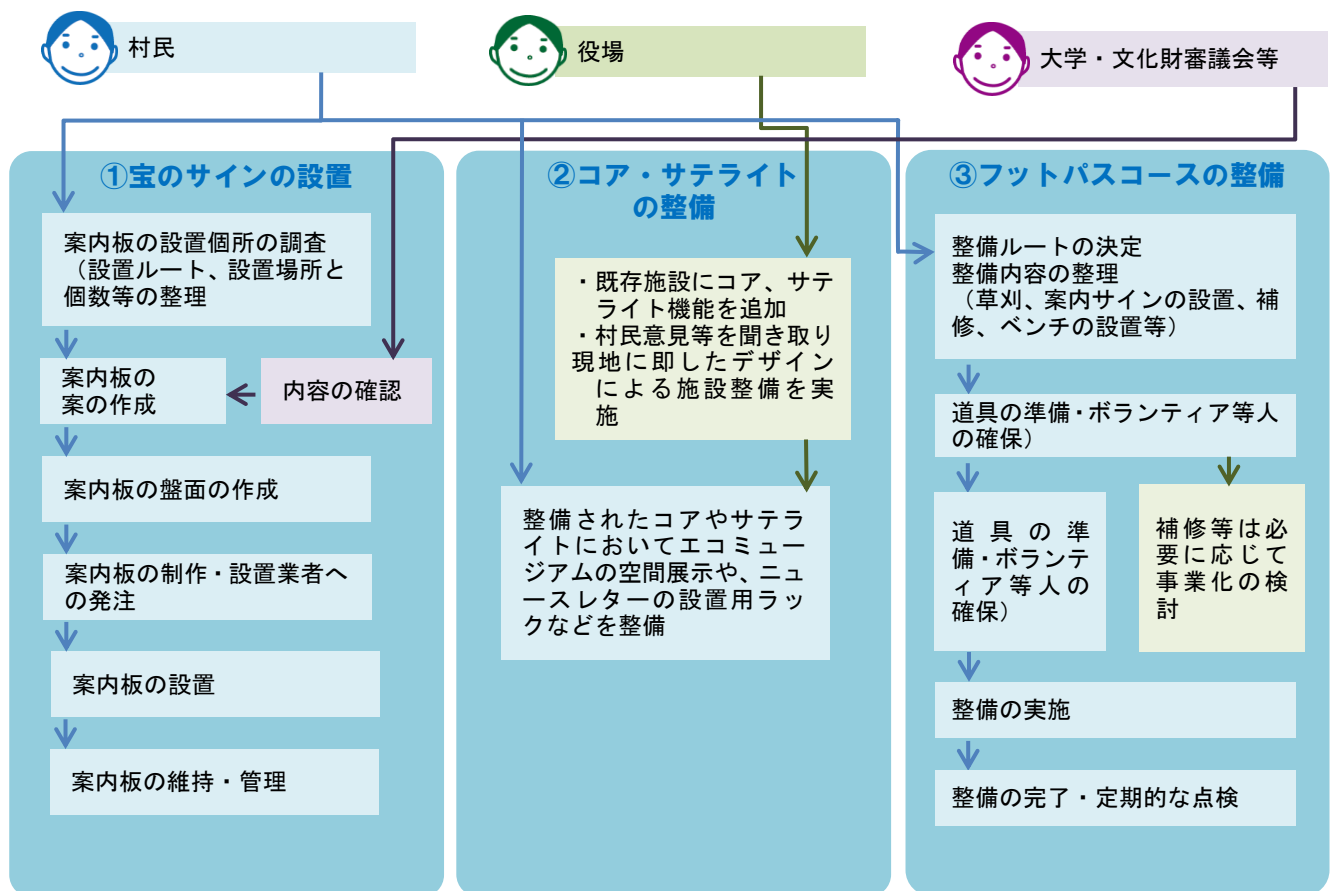
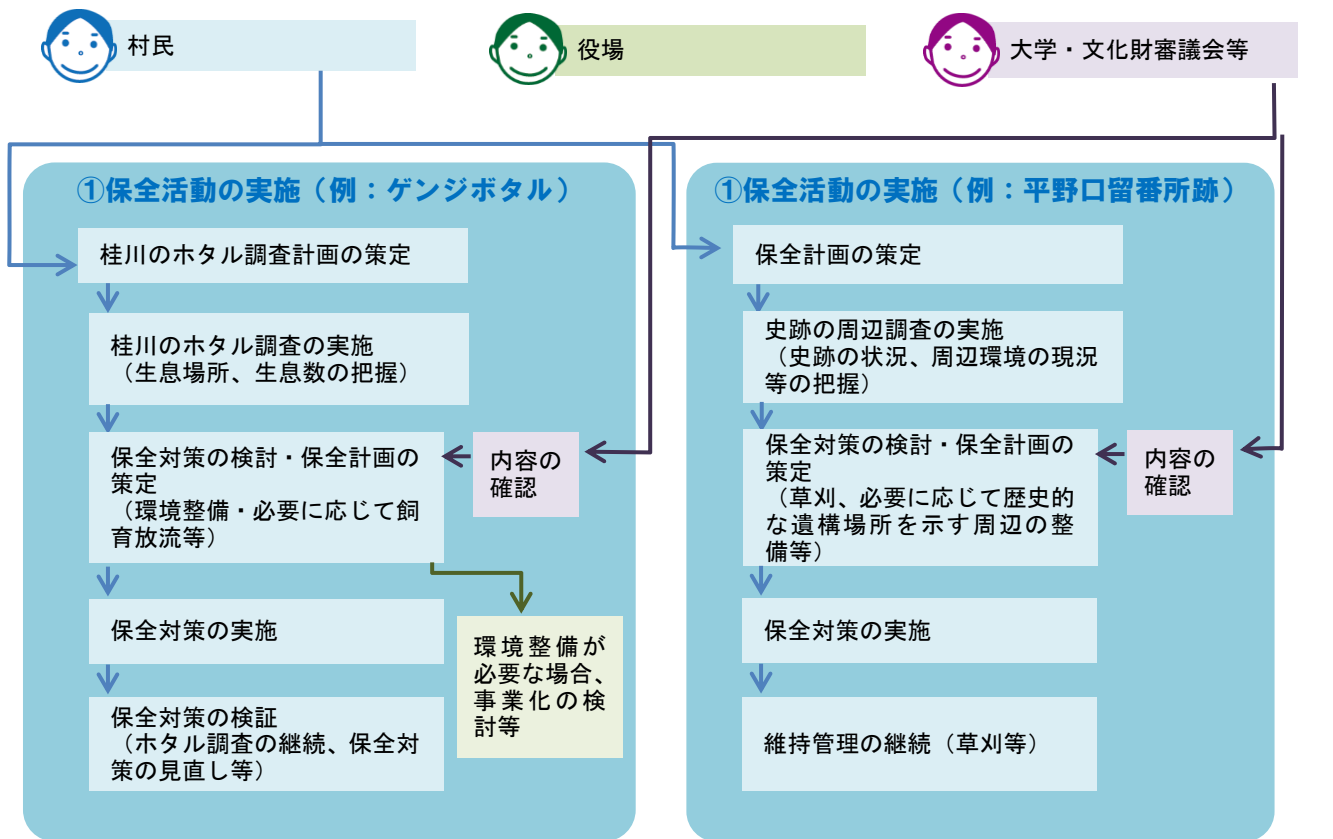


図 宝の保全・基盤整備の推進方策図



## 参考 1. 試行期の活動実績

平成 25 年から始めた、エコミュージアムに関する取り組みは、「宝」の発掘、調査、活用は、宝さがし、宝みがき、宝つなぎ、宝じまん、宝おこしの 5 段階を定型とするワークショップ等の活動により進めてきました。

この 5 段階は、エコミュージアムの取組みの概念図（地域への理解・愛着の好循環づくり）に示した 5 段階と同じであり、今後も、この 5 段階を山中湖方式として繰り返して行うことで、新しい「宝」の発見や、「宝」の情報の充実を図ります。

具体的な 5 段階は以下に示すとおりです。次ページより、この 5 段階に沿って平成 25 年度から、村民主体により取り組んできた宝に関する取り組みの概要を示します。

### 山中湖方式（宝を発掘・調査・活用する 5 段階）

- 宝さがし** 村民が主体的に参加してくらしの中から宝を発掘する。
- 宝みがき** 発掘した宝を村民が集まり調査研究して宝の価値を高める。
- 宝つなぎ** 宝を教材化や商品化して地域学習や観光振興に活用する。
- 宝じたて** 宝を保全、新しい宝を創造、整備する。
- 宝じまん** 宝の情報を村内外へ発信する。

## ①宝さがし

宝さがしは、村民が主体的に参加してくらしの中から宝を発掘する取り組みです。

村民が主体的に参加するため、また、宝の情報を蓄積していくために定型のツールを使用したり、今後、活用しやすいように整理するための情報（場所や年代など）を把握するために、村民が集まり、掘り起しや情報提供を行うことができるワークショップを活用します。平成25年には、宝カードによる宝の一般募集、ガリバーマップを用いた達人による宝の掘り起し、平成26年度にはむらあるきを行ってきました。

### 【発掘】 宝さがし

#### 1. 村民からの投稿

・宝カード（平成25年）

#### 2. ワークショップ

A. ガリバーマップ（平成25年）  
（地図化・年表化）

B. むらあるき  
（再発見と情報収集）（平成26年）

## ●宝カード

宝カードは、村民からの投稿等、宝の情報をまず始めに情報提供する際に用います。カードのサイズで気軽に書き込めるボリュームとすることで、宝を募集したり、初めて活動に参加する人が書き込んだりするのに活用できます。宝カードは平成25年度から冊子に綴じ、内容を宝のデータベースに登録して情報を蓄積しています。

1	生き物 景色 料理・工芸品 史跡・寺社 祭・イベント 音話・達人 その他 ※該当する区分に丸をつけてください。
	宝の名称
出合った場所	
出合った時代・季節	
宝にまつわる話 ※宝と自分との関係や思い出、どんな宝か？ どうして宝だと思うのか？ 宝にまつわるエピソードなどかいてください。	



図：宝カード

写真：宝カードの冊子

### ●宝のワークショップ「ガリバーマップ」

ワークショップの「ガリバーマップ」は、大きな村の地図に「宝」の位置を示して、さらに年表として整理し、区分ごとに「宝」の内容の確認を行うものです。宝カードにより集まった「宝」を基に、村民が集まって宝の位置や、宝がある時代、季節などの情報を確認しあう、宝さがしの第2ステップです。

ガリバーマップでは大勢の村民が集まって「宝」の整理や見直しをすることが出来るツールであり、集められた宝の位置情報や年表は、ワークショップの開催後にデータベースに整理して、情報を蓄積してきました。



写真：ガリバーマップ（平成 25 年度活動）



①宝を地図に落とし込む（場所の確認）



②宝を年表に落とし込む（年代や季節の確認）



③宝カードの整理



④全体の振り返り

写真①～④：ガリバーマップのワークショップの様子

## ●宝のワークショップ「むらあるき」

ガリバーマップ等の手法によって「宝」が地図に示された後に、この宝の地図を使って「宝」を実際に見て歩く「むらあるき」を行います。

むらあるきでは「宝」の写真撮影しながら歩き、参加者が「宝」についての感想や意見、保全や活用のイメージを話し合っこの情報を書き取ります。また、歩きながら新しい「宝」を追加していきます。「むらあるき」によって集まった情報は、宝の記事として整理して、データベースに追加します。また、「むらあるき」の感想は、今後の宝の保全や活用に重要な意見として記録しました。



写真：地区別むらあるきの様子（平成 26 年度）

## ②宝みがき

宝さがしで発掘された「宝」をみがく段階では、写真や解説、村のみんなの声などの情報を集め、「宝」のデータベースを充実させていきます。

ワークショップの「記事づくり」等の活動により、宝の情報を集めました。また、宝を解説するための文書を作成するために、文献や聞き取り調査により不確かな点はなるべく正確にしていきました。宝みがきは、1名の意見で整理するのではなく、多数の村人が集まって実施する事で、内容を客観的に整理していきます。

### 【発掘】 宝みがき

#### 2. ワークショップ

C. 記事づくり 等

→A. ガリバーマップや、B. むらあるきの際の情報も村民の意見をデータベースに追加

#### 3. 聞き取り調査、文献調査

- ・達人等の村人への聞き取り調査
- ・山中湖村史や郷土資料による調査



①歩いて宝を確認



②宝の記事を作成

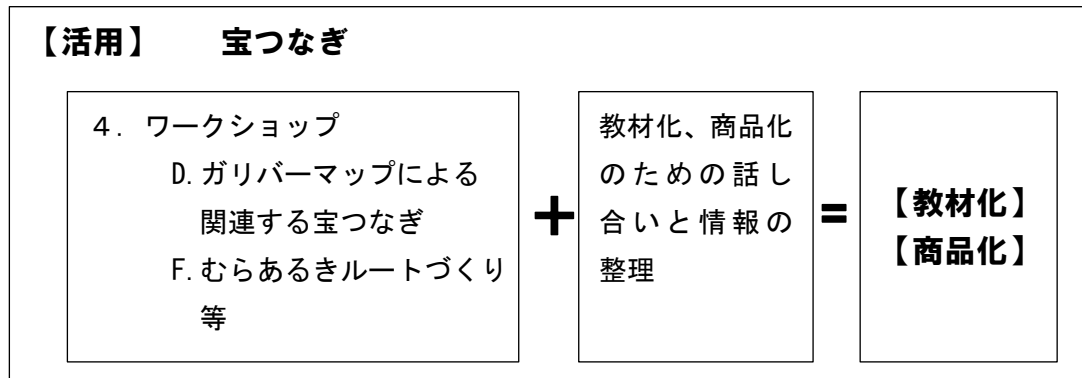


③記事や感想の発表

写真：むらあるき（記事づくり（ワークショップ）の様子（平成 26 年度）

### ③宝つなぎ

宝みがきによって、情報が充実した宝は、区分が同じものや類似性が高いものなど一定のテーマで抽出して、単体の「宝」としてではなく、村全体の中での位置づけを明確にします。このため、ガリバーマップを用いて、複数の「宝」をテーマでつなぎます。繋いでテーマ性がある「宝」については、宝みがきで収集した「宝」の情報も踏まえて商品化や教材化を行います。



関連性の高い宝どおしを繋ぎ、テーマを設定する。例えば「素晴らしい景観」等。繋いだ結果を基に、山中湖の写真撮影スポットガイドを作成するなど、商品化、教材化へ繋げる。

写真：ガリバーマップ（宝つなぎ）の様子（平成 25 年度）



宝の分布地図を見ながら、範囲を定めて宝をめぐるルートを作成する。何度も歩いて見どころを整理してガイドコースを作るなど、商品化、教材化へ繋げる。

写真：むらあるきルートづくりの様子（平成 26 年度）

#### ④宝じたて

宝である自然環境や史跡の保全や再生、整備や、エコミュージアムを支える基盤環境として、サインの統一や導線の整備を行います。(今後推進する取組み)

#### 【保全・創出】 宝じたて

7. 宝の保全、再生、整備

8. 基盤環境の整備



写真：山中口留番所址（史跡の整備）



写真：平野古民家の整備

表 これまでの取り組み内容

平成 25 年度	村民活動実施内容
10 月	宝募集ハガキの発送・回収
11 月 14 日	WS 参加者への事前説明会 開催
第 1 回 11 月 19 日 第 2 回 11 月 21 日 第 3 回 11 月 28 日	第 1 部 「宝」の掘り起こし 開催 (全 3 回)
第 1 回 12 月 18 日 第 2 回 12 月 19 日	第 2 部 「宝」つなぎ 開催 (全 2 回)
3 月 12 日	結果報告会
平成 26 年度	活動実施内容
6 月 8 日	第 3 部 第 1 回 むらあるきワークショップ (花の都公園周辺)
7 月 13 日	第 3 部 第 2 回 むらあるきワークショップ(花の都公園周辺)
8 月 10 日 ※雨天中止	第 4 部 夏休み宝さがしウォークラリー (花の都公園周辺)
10 月 17 日山中地区 10 月 20 日旭日丘地区 10 月 21 日長池地区 10 月 27 日平野地区	第 5 部 第 1 回 地区別むらあるきワークショップ
11 月 11 日長池地区 11 月 13 日平野地区 11 月 14 日旭日丘地区 11 月 15 日山中地区	第 5 部 第 2 回 地区別むらあるきワークショップ
1 月 8 日	第 1 回 宝めぐり作ろう会 (宝めぐり 50 の作成会議)
2 月 2 日	第 2 回 宝めぐり作ろう会 (宝めぐり 50 の作成会議)
3 月 23 日	村の未来発表会 (結果報告会)
平成 27 年度	活動実施内容
7 月 31 日	夏休み 宝さがしウォークラリー (花の都公園周辺)
9 月 15 日	(仮称) 山中湖村エコミュージアム 基本計画策定 庁内会議
11 月 5 日	村民意見交換会 「宝の活用について考えるワークショップ」
3 月 1 日	関係機関代表者会
3 月 16 日	村の未来発表会 (結果報告会)

宝の活用実績

- ・宝のデータベースの整理
- ・宝めぐり 50 の発行

平成 27 年度

村民主体：平野地区、長池地区  
の散策コースづくり、長池地区  
の郷土料理研究、郷土史作成  
村主体：宝の WEB ページづくり

## ⑤宝じまん

エコミュージアムの活動そのものや、宝の情報、宝つなぎによって商品化、教材化したものをインターネットや広報、商品の販売等を通じて村内外に発信してきました。

<b>【発信】 宝じまん</b>	
5. 広報・インターネット	6. 宝めぐり50等の冊子
等	等



写真：山中湖村広報



図：宝めぐり50（宝の紹介冊子）



## 参考2. エコミュージアムとは

エコミュージアムは、1960年代に国際博物館会議（ICOM）の初代会長であるフランスのアンリ・リヴィエールが創案しました。

エコミュージアムの思想が生まれた1960年代のフランスは、都市部への人口流入が進み、急激な都市化の一方で農村の過疎化が加速していました。また、中央集権政治に対する否定など、思想的な運動が起こっていました。

このような時代背景の中、都市の農村のバランスを保つための地方分権への支持や子ども達へ良好な生活環境を継承するための環境保全といった考え方、地方自然公園の整備の動きなども関連して、エコミュージアムの理念は生まれました。

リヴィエールはエコミュージアムについて以下のように示しています。

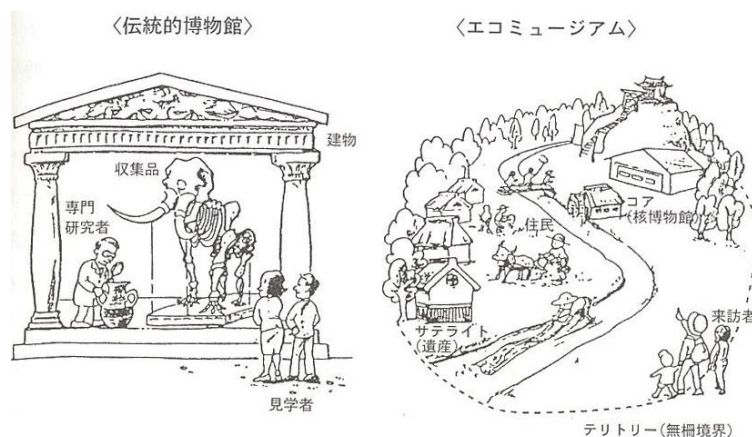
### ●エコミュージアムの目的

地域社会の人々の生活と、その自然環境、社会環境の発展過程を史的に探究し、自然、文化、産業遺産等を現地において保存し、育成し、展示することを通して当該地社会の発展に寄与する。

### ●理念

エコミュージアムは行政と住民が一体となって発想し、形成し、運営していく筈である。（行政と住民による二重入力方式）

（「エコミュージアム・理念と活動」 日本エコミュージアム研究会編より）



伝統的博物館とエコミュージアムの比較 新井重三（1995）

エコミュージアムは、環境保全といったエコロジーの観点を理念の根底に持ちながら、地域社会の発展にも寄与するものということで、持続可能な社会づくりにも共通する考え方を持つものであると言えます。

また、リビエールはエコミュージアムについて、「行政と住民による二重入力方式」を行うことを理念として示しており、魅力的な個性ある地域づくりを成功させている例は、地域住民の知識や能力を活かすことが重要であるという事が各種のエコミュージアムの取組みの中で語られています。実際に近年のまちづくりでは、地域住民の発想によるまちづくりが成功を収めていることが多く、住民が重要な位置付にあるエコミュージアムの理念は、現在も各地で取り入れられ、地方を活性化させる新しいまちづくりの手法として認識されています。

#### 《参考：エコミュージアムの発展的定義》

- エコミュージアムは行政と住民と一緒に構想し、運営していくもの。行政は専門家と施設や資金を、住民は知識と能力を提供しあって作り上げていくものである。
- エコミュージアムは居住する地域の歴史・文化・生活などを理解して住民が自らを認識する場であるとともに、来訪者に自らが生活する地域を理解してもらうための場でもある。
- 人間は伝統的社会・産業社会の中でも自然と関わって生活してきており、それを理解する場所がエコミュージアムである。
- エコミュージアムは先史時代から現在に至るまでの時間の流れの中で人々の生活を捉え、未来を展望していくものである。しかし、エコミュージアムは未来を決定する機関ではなく情報と批評的分析の役割を果たすところである。
- エコミュージアムは歩いたり、見学することができる恵まれた空間である。
- エコミュージアムは外部研究機関と協力しながら地域研究に貢献し、その分野の専門家を育成する「研究所」である。
- エコミュージアムは自然遺産や文化遺産を保護し、活用を支援する「保存機関」である。
- エコミュージアムは地域研究や遺産の保護活動に住民の参加を促し、将来、想定される地域の様々な問題に対し理解を深めるための「学校」である。

(出典「エコミュージアムについて」法政大学教授 馬場憲一)

平成27年度（仮称）山中湖村エコミュージアム基本計画策定支援及び活動支援業務

山中湖村エコミュージアム基本計画 宝ボの書

平成28年 3月 山中湖村 企画まちづくり課

電話 0555-62-9971

